

東京都 沖ノ鳥島・南鳥島に関する研究調査事業
実施類型 C 実施機関 国立大学法人東京大学

沖ノ鳥島・南鳥島の科学情報の収集・整理に基づく 島の地生態工学的維持

(成果報告書)

2023(令和5)年2月



目次

1. 報告内容の要旨	1
2. 研究調査の概要	1
2. 1 研究調査開始当初の背景及び課題	1
2. 2 研究調査の目的	2
2. 3 研究調査の達成目標・期待される効果	2
2. 4 研究調査の実施体制	3
3. 研究調査の実施内容	4
3. 1	4
3. 1. 1 実施目的	4
3. 1. 2 実施方法	4
3. 1. 3 実施結果	5
3. 1. 4 考察	19
3. 1. 5 研究調査の成果（達成目標に対する到達度）、今後の展望	20
4. まとめ	21
5. 別添資料	21
別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [資料篇]	
別添資料2 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [地図篇]	
別添資料3 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [英文篇]	

この報告書は、東京都が行う「沖ノ鳥島・南鳥島に関する研究調査事業」として決定された研究調査「沖ノ鳥島・南鳥島の科学情報の収集・整理に基づく島の地生態工学的維持」に係る実施内容を取りまとめたものです。

1. 報告内容の要旨

沖ノ鳥島と南鳥島は、日本の南端と東端に位置する国境離島で、周囲に 40 万平方 k m の排他的経済水域を持っている。沖ノ鳥島は、今世紀の海面上昇で水没の危機にある。両島とも、サンゴ礁の基盤の上に、基盤をつくるサンゴ礁が侵食され残されたか、新しいサンゴ礫が打ち上げられて形成された島をもつ、卓礁型のサンゴ礁である。島の維持のためには、これまでに得られた科学的な情報、とくに地学、生態学、海洋物理学的な情報に基づいて、必要な研究を進め、適切な維持策を提案・実施する必要がある。しかしながら、これまで両島について行われた科学的研究や事業について、公表された資料が収集、整理され、広く共有されていなかった。

こうした点をふまえて本事業は、東京大学海洋アライアンス「沖ノ鳥島・小島嶼国プログラム」が、両島を対象として行われた研究と事業の、資料（論文、報告書、記事、学会要旨、書籍）と、地図類（地形図、海図、水路誌など）を網羅的に収集して、内容によって整理し、データベースとして公開することとした。その結果、両島に関する 253 点の資料と、50 点の地図類を収集・整理して、データベースとして公開した。本データベースによって、島の地形の形成に関わる研究がほとんどないこと、省庁の事業は記事や学会報告の形で公表されているが科学論文は少ないこと、国際誌に英文で公表された資料が少なく国際発信力に欠けることが明らかになった。今後、両島において、地学・生態学、海洋物理・海岸工学的な視点からの研究成果を、国際誌に公表することが必要である。さらに科学的調査研究に基づいて構築される島の維持技術により、沖ノ鳥島の地生態工学的維持・保全に活かしていく。

2. 研究調査の概要

2. 1 研究調査開始当初の背景及び課題

沖ノ鳥島と**南鳥島**は、日本の南端と東端に位置する国境離島である。両島とも、低潮位以下のサンゴ礁を基盤として、その基盤が侵食され残されたか、それを基盤の上に高潮位以上まで堆積したサンゴ礫が作る卓礁型の**サンゴ礁州島**である。現代におけるサンゴ礁州島の最大の課題は、海面上昇とそれによって激化する海岸侵食によって島が消失・水没してしまうことである。実際、沖ノ鳥島は高潮位以上数 10cm の標高しかないと言われており、国による保全事業が進められている。一方、沖ノ鳥島とほぼ同様のサイズのサンゴ礁からなる南鳥島は、サンゴ礫が標高 9 m まで堆積して島を造っている。南鳥島がどのように形成、維持されているのかを理解することは、沖ノ鳥島だけでなく、広くサンゴ礁州島一般の維持・保全をはかる上できわめて重要な情報を提供する。

両島の地学・生態学的な形成・維持過程を解明して、それに基づいて適切な維持・保全策を提案するためには、両島の様々な時間スケール（島の本体の地質を造る数 100 万年～数 1000 万年、島の表面の地形を造る数 100 年～数 1000 年、現在と、海面上昇が予想されている将来 100 年）における**地球科学的**情報、島を造るサンゴの**生態学・生物地理学的**情報、波浪などの**海洋物理学的**情報、適切な維持のための**海岸工学的**情報が必要である。さらに島の水没に関

わる**国際法**的な地位や、島の維持の根拠となる島とその周辺海域の**水産・鉱物資源**に関する情報もまとめる必要がある。

しかしながら、両島の科学的調査はそれぞれ個別に行われていてまとめられておらず、しかも圧倒的に不足している。本来、調査・研究成果は、科学論文として公表され、他の様々な目的のために共有されるべきものであるが、オリジナルなデータに基づいて公表された両島に関する科学的論文は、きわめて少ない。島の保全や利活用に関する国の事業は、それぞれ省庁ごとに縦割りで行われており、その成果は報告書としてまとめられているが、一般に公開されているものはほとんどない。

これは、両島とも遠隔でアクセスが困難であるという理由以上に、様々な配慮から、事業の内容や調査結果を広く公開することに対して、困難があるためであろう。さらに、両島に関する科学的成果が、ほとんどすべて日本語で、**国際的に発信**されていないという問題もある。

こうした中で東京都は、総務局に小笠原・国境離島担当部署を設け、ホームページを開設して積極的に沖ノ鳥島・南鳥島の**情報発信**をはじめている。さらに、令和3年には沖ノ鳥島周辺で、地形、水質、海洋物理、生物調査を実施している。この調査結果も、これまでに行われた様々な調査結果の中に位置づけて解析することによって、調査結果の意義がより明確になることが期待される。

2. 2 研究調査の目的

2. 1 であげた、両島に関する調査・研究が個別的に行われており、しかも公表された論文や報告が圧倒的に少ないという問題をふまえて、本研究では「**沖ノ鳥島・南鳥島の地生態工学的維持**」という視点から、これまでに得られた科学的知見と情報を、一次情報に遡って**収集・整理**して、**データベース化**して**公開**することを目的とする。このデータベースに基づいて、両島の適切な維持策と、そのために必要な調査・研究を提案する。

視点をあえて「沖ノ鳥島・南鳥島の地生態工学的維持」に絞ったのは、目的なく両島的情報を網羅的に収集しても、単にリストができるだけで将来の調査研究につながらないからである。また、実際にこの視点のために必要な情報は、地球科学、生態学・生物地理学、海洋物理学、海岸工学、国際法、水産・資源と、両島に関わるほとんどすべての分野にまたがっており、実際は網羅的な情報収集・整理を行うことになる。

2. 3 研究調査の達成目標・期待される効果

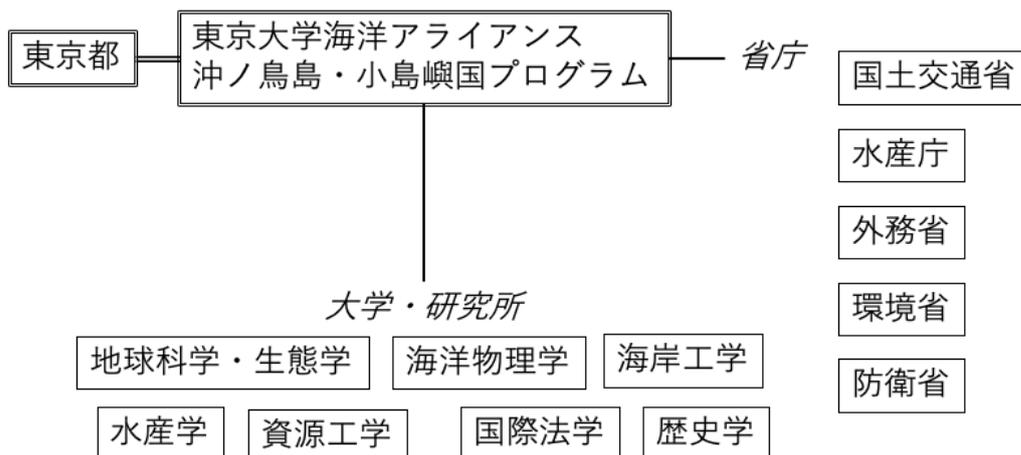
本研究は、**沖ノ鳥島・南鳥島の維持・保全**のために必要な既存の情報を収集することを目的としている。沖ノ鳥島と南鳥島について、これまで散発的に公表されていた、あるいは報告書として眠っていた様々な科学的情報を「島の地生態工学的維持」という視点から**収集・整理**して、一般にも公開することによって、今後両島の地学的・生態学的、国際法上の維持を進めることができる。島の「維持」とは、地形としての維持だけでなく、国際法上の地位の

維持の意味もある。後者にとって、国民の理解と国際的な合意が必要であることは言うまでもない。また、島の維持・保全は、周辺海域の維持・保全に直接関わるし、維持・保全の活動は利活用の重要な一部となるものである。実際に欧米は遠隔離島を、経済的な利活用でなく、保全することによって実効的に管理・支配するという方針をとっている。

「島の地生態工学的維持」というテーマ以外にも、沖ノ鳥島・南鳥島には様々な科学的重要性がある。孤立した島の生物・生態系の研究は、生物地理学の主要な研究テーマのひとつである。さらに沖ノ鳥島は日本で唯一熱帯に位置するという点でも重要なフィールドである。また、沖ノ鳥島は九州－パラオ海嶺という水没しつつある島弧に唯一残った島であり、南鳥島は日本で唯一太平洋プレート上にある島であるという地球科学的に重要な対象でもある。両島の周辺海域には、豊富な水産・鉱物資源が存在するとされている。これまでの科学的情報を整理して、問題点を抽出する中で、本研究の課題である「地生態工学的島の維持」という課題以外に、様々な研究課題を抽出することができる。

2. 4 研究調査の実施体制

本研究は、東京大学海洋アライアンス連携研究機構「沖ノ鳥島・小島嶼国プログラム」をベースとして実施する。同プログラムは、2008年に設立され、海面上昇に対する沖ノ鳥島や太平洋小島嶼国（環礁）の生態工学的維持について勉強会を行うとともに、産官学のセクターを越えた沖ノ鳥島における取り組みについて情報交換の場を設けてきた。参加メンバーは、大学・研究所、国の省庁（国土交通省、水産庁、環境省、外務省、防衛省、沖縄総合事務局）、東京都、政府系財団、民間から、220名ほどである。



本プログラムは、この研究課題の基盤となるあらゆる分野の大学・研究所の研究者が参加しており、すべての分野の情報を収集し、助言を得ることができる。さらに沖ノ鳥島・南鳥島において事業を行っているすべての省庁も参加しており、本プログラムを通じて、こうした省庁が取得した一次情報や報告書の提供を依頼することができる。

海洋アライアンス連携研究機構ホームページ <https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/>

3. 研究調査の実施内容

3. 1

3. 1. 1 実施目的

「沖ノ鳥島・南鳥島の地生態工学的維持」という視点から、これまでに得られた資料と地図類を、1) 収集・整理して、2) データベース化して公開する。資料の解析に基づいて 3) 地生態工学的維持のための調査研究を提案し、4) 国際的に発信する。

3. 1. 2 実施方法

1) 科学的情報の収集・整理

収集する資料は、公表された論文、報告書、記事、学会要旨などの資料と、地形図、海図、水路誌などの地図類である。地図類は、両島が掲載された地形図、海図等を、可能な限りすべての改版された原図を収集する。

資料については、すでに持っていた論文、報告書等の、参考文献欄からたどるとともに、Web of Science などの科学論文データベースで検索して、入手を試みた。Web of Science は、信頼できる学術誌に掲載された原著論文を収録した、オンラインデータベースである。同データベースの topic 検索で、沖ノ鳥島については Okinotorishima Island or Okinotori Island、南鳥島については Minamitorishima Island or Minamitori Island or Marcus Island によって、論文を収集した。Macus Island は、同名の島が南アフリカなどにもあるので、注意が必要であった。

東京大学は、多くの学術誌出版社と契約を結んでいるため、多くの学術論文をインターネット経由で直接 pdf として入手することができる。さらに、pdf 化されていない資料も、学内外の図書館から、pdf またはコピーを取り寄せることができるので、そうしたサービスを使って資料を収集した。一部の古い資料については、東京大学附属総合図書館から直接借り出してコピーした。コピーとして入手した資料は、原則としてすべて pdf 化した。書籍については、東京大学書籍部を通じて購入した。一部の資料は、古書のデータベース経由で注文、購入した。国土交通省と水産庁の事業に関わる論文、報告書、記事、学会要旨は、事業者に依頼して入手した。

地形図は国土地理院より、海図と水路誌は海上保安庁海洋情報部より、両島について出版されている、すべての版を入手した。

作成したデータベースを、**東京大学海洋アライアンス連携研究機構「沖ノ鳥島・小島嶼国プログラム」**のメンバーに紹介・回覧して、さらに資料の収集をはかった。資料の収集は、本課題終了後も継続する。

2) データベース化・公開

収集・整理した資料はリスト化して、対象とする島ごと、資料の種別ごと、分野ごとに整理した。資料は可能な限り電子化してリストにリンクした。資料のリストは、**東京大学総合研究博物館**のウェブデータベースにアップして、広く公開する。このページは、**東京都の沖ノ鳥島・南鳥島ホームページ**と**東京大学海洋アライアンス**のホームページともリンクをはる。プラットフォームとしてのホームページは、本研究課題終了後も維持して、新たに収集した資料を適宜追加・更新する。

データベースにアップした資料は、著作権等の問題をクリアしたものについては、自由にダウンロードまたはダウンロード先にリンクする。そうでないものについては、リストのみ公開して、資料本体は総合研究博物館で閲覧できるようにする。

3) 地生態工学的島の維持策の提案

地生態工学的島の維持のコンセプトは、沖ノ鳥島・小島嶼国プログラムで提案して、一部事業として試験的に実施されている。本課題では、この視点に関わるこれまでの情報を網羅的に収集・整理して、このコンセプトに肉付けし見直しをはかるとともに、新たな課題を抽出する。

4) 国際発信

これまでの沖ノ鳥島・南鳥島の科学的情報のもう一つの問題点は、ほとんどすべて日本語で、英語での国際的な発信がなかったことである。データベースを構築し、それに基づく地生態工学的島の維持策の提案をまとめたら、それらを英訳のレビューとして国際誌に公表する。受理・公表されたレビュー論文は、沖ノ鳥島・南鳥島データベースのホームページに公開して、広く活用・引用してもらう。

3. 1. 3 実施結果

1) 資料の内容

収集した資料（論文、報告書等の文献）のリストを、別添資料1につけた。資料の情報は、収集順につけた番号、pdfの有無、資料の種別（論文、報告書、記事、学会要旨、書籍）、沖ノ鳥島と南鳥島のどちらを扱った資料であるか、資料が扱っている分野（地学・地理、気象・海象、島の保全、港湾・利活用、資源、生物・水産、国際法、歴史・人文、一般・その他）、著者名、出版年、タイトル、誌名、巻号とページ、DOI (Digital Object Identifier)、出版社、URL、公開の有無、備考である。

表1に収集した資料のまとめを集計して示した。これまでに253点の論文、報告書等を収集・整理した。まだ未登録の資料が30点ほどある。これまでに整理した資料の内訳は、沖ノ鳥島と南鳥島両方を扱ったものが25点、沖ノ鳥島126点、南鳥島101点である。資料の種別は、論文78、報告書21、記事72、学会要旨63、書籍19である。

沖ノ鳥島と南鳥島の両方を扱った論文は、地形・地質と魚礁を扱った2報だけである。報告書は、南洋群島の戦前の水路部の調査結果をまとめた、田山利三郎（1952）『南洋群島の珊瑚礁』が、両島の地形・地質を記載している。南鳥島には上陸・調査を行っていないが、沖ノ鳥島は調査の様子を写真も交えて紹介し、現在の2島以外に、少なくとも4つの島が高潮位以上にあったことを記述している。同報告書は、第1巻が日本語、第2巻が英語でまとめられ、すべての図と写真に英文の説明があり、国際発信を意識したものになっている。記事は2010年以降、両島における港湾の建設にかかる解説が、主に雑誌「港湾」に寄稿されている。書籍としては、貝塚爽平が日本の地形の総説で、茅根が日本のサンゴ礁の総説で、日本の南端と東端に位置する両島の地形とサンゴ礁を、手短かに紹介している。後者は英語版もある。また山本浩一が、日本領土でありながら一般国民がなかなかアクセスできない島として、

表1. 沖ノ鳥島・南鳥島データベース収集資料の内訳(2023年2月10日)

論文・報告書等	種別	資料数	うち			主分野								
			英文	日本語+ 英文要旨	日本語	地学・ 地理	気象・ 海象	島の保 全	港湾・ 利活用	資源	生物・ 水産	国際法	歴史・ 人文	一般・ その他
沖ノ鳥島・南鳥島	論文	2	0	1	1	1					1			
	報告書	2	1	0	1	2								
	記事	14	0	0	14			1	13					
	書籍	8	1	0	7	4						1	3	
	計	26	2	1	24	7		1	13		1	1	3	
沖ノ鳥島	論文	27	14	7	6	5			1		15	6		
	報告書	11	0	1	10	2	1	7			1			
	記事	26	0	0	26			15	9		2			
	学会要旨	59	10	3	46			1	1		57			
	書籍	3	1	0	2								1	2
	計	126	25	11	90	7	1	23	11		75	6	1	2
南鳥島	論文	49	30	13	6	6	11		5	7	10	2	4	
	報告書	8	0	2	6	1	4		2		1			
	記事	32	0	0	32	3	1	1	7		5		14	1
	学会要旨	4	0	0	4				1		3			
	書籍	8	2	0	6	1							6	1
	計	101	32	15	54	11	16	1	15	7	19	2	24	2
計		253	59	27	166	25	17	25	39	7	95	9	25	7

尖閣諸島、択捉島、竹島とともに、南鳥島と沖ノ鳥島を一般向けの書籍で紹介している。

沖ノ鳥島を扱った論文としては、林原ほか（2006）などが東京都水産海洋研究報告に、沖ノ鳥島のサンゴや生物相の調査結果を報告した後、2010年代以降、水産庁のサンゴ有性生殖種苗生産技術の開発の成果に関わる論文が複数出版されている。このうち英文で書かれたものは4報で、原著論文はNakamura et al. (2011)とYorifuji et al. (2021)の2報である。Kayanne et al. (2012)は、それまでの水産庁と、国土交通省京浜河川事務所と東京港湾事務所（2015年から特定離島港湾事務所）の資料と試料をまとめ、沖ノ鳥島のサンゴ種と地形形成についてまとめた。2005年以降海洋政策財団が沖ノ鳥島の維持・再生に関する研究会を設けて、島の維持について提言している。また、国土交通省京浜河川事務所が、2009年以降島の維持について雑誌「河川」、「海岸」に記事を寄稿している。水産庁は2006年から沖ノ鳥島において上述したサンゴ種苗生産に関わる成果を、日本サンゴ礁学会や日本水産工学会、国際サンゴ

礁シンポジウムなどで公表している。書籍は、Sharp (1960) “The Discovery of the Pacific Islands”において、大航海時代のスペイン船による沖ノ鳥島の発見について記載しているほか、一般向けに劇画や小説（さいとう，2004，消滅海域；大石，2005『沖ノ鳥島爆破指令』）が出版されている。

南鳥島を扱った論文としては、1902年に日米の間で南鳥島の領有問題が起こった際に、これが「南鳥島事件」として世間を騒がせ、いくつかの論文と記事が発表されている。一方、米側は、1週間の滞在時に研究者によって、Bryan (1903) “A Monograph of Marcus Island”で、南鳥島の地形、生態について、詳細な報告を公表している。その後は、島の生態、地理に関する論文が散発的に公表されているほかは、戦後以降、気象観測の成果が論文と記事として公表されている。2010年代後半以降、南鳥島周辺の海底鉱物資源（レアアース）に関わる英文論文が、多く出版されている。

2) 地図類の内容

収集した地図類（地形図、海図、水路誌等）のリストを、別添資料2につけた。地図・海図の情報は、番号、区分（地形図、空中写真、海図、海底地形図、海底地質構造図、水路誌、米軍地図）、地図・海図番号、原図の有無、pdfの有無、沖ノ鳥島と南鳥島のどちらを扱った資料であるか、地図タイトル、縮尺、図番号、発行年、改版等年、備考である。

表2に地図・海図類のまとめを集計した。地形図10、空中写真11、海図20、海底地形図2、海底地質構造図1、水路誌5、米軍地形図1を収集した。島別では、沖ノ鳥島・南鳥島が12、沖ノ鳥島が20、南鳥島が18である。

表2.地図,海図資料の内訳(2023年2月10日)

地形図,海図等	計	沖ノ鳥島・南鳥島	沖ノ鳥島	南鳥島
地形図	10	7	2	1
空中写真	11		9	2
海図	20		8	12
海底地形図	2		1	1
海底地質構造図	1			1
水路誌	5	5		
米軍地形図	1			1
計	50	12	20	18

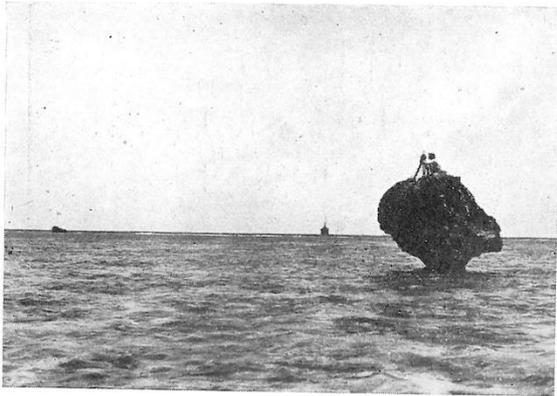
沖ノ鳥島がはじめて水路誌に現れるのが1892年「パレスペーラ」として記載された。その後、1922年に日本の海防艦「満洲」が測量を行い、海図第800号に「沖ノ鳥島」の名称で記載され、1933年水路部が測量して、1975年に補正図を1933年の測量成果「小笠原諸島諸分図」の一部に貼り付けられて出版され、1978年海図49改版で「小笠原諸島諸分図第1」として出版される、1984年海図では、1933年と1982年の測量成果によって改版された。1991年には、1987年と1988年の測量成果による改版、2002年に世界測地系への変更、2005

年に 2000 年までの測量成果で改版され、現在に至っている。1933 年の測量では、現在の北小島が平均海面から 2.8m、現在の東小島が 1.4m の記載があるほか、倒壊消失した南小島が 2.3m、ほかに平均海面上の小島（露岩等）として 0.6m, 0.9m, 0.7m の 3 つの記載がある。沖ノ鳥島には計 6 つの島があった。その後、1991 年の改版では、北露岩が平均海面上 1 m、東露岩が 0.9m と記載され、2004 年の補刻で「北小島」「東小島」に改められ、潮位の記載が省かれた。なお、それまでに記載されていた潮位の記載によれば、最低水面上、平均水面が 0.84m、大潮升が 1.4m である。この潮位の値を適用すれば、大潮升は平均海面上 0.56m となり、北小島、東小島それぞれこの大潮の値の上、0.44m, 0.34m となる。島の標高については、考察で別途議論する。地形図は、1987 年に 5 万分の 1、1984 年に 2 万 5 千分の 1 が刊行されている。

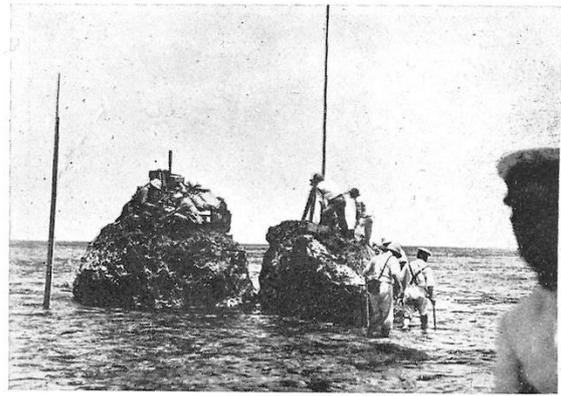
南鳥島については、1902 年同島に派遣された秋元秀太郎中尉の測量結果として、精確な地形図がつくられ、1904 年に分図の 1 つとして「南鳥島」が公表された。それ以降何回か改版しているが、記載内容に変化はない。2008 年に 1995 年までの新規測量の成果をいれて、改版され、2020 年に「南鳥島」だけの海図となった。地形図は、1983 年に 5 万分の 1、2007 年に 2 万 5 千分の 1 が刊行されている。

3) データベースの英文化

253 件の資料のうち、英文の資料と、和文だが英文のタイトル・要旨がついている資料を英文で別添資料 3 につけた。英文の論文、報告書、学会要旨、書籍は 59 点で、英文要旨がついている和文資料は 27 点だけだった。ほとんどの学会要旨、報告書、記事は和文のみであった。

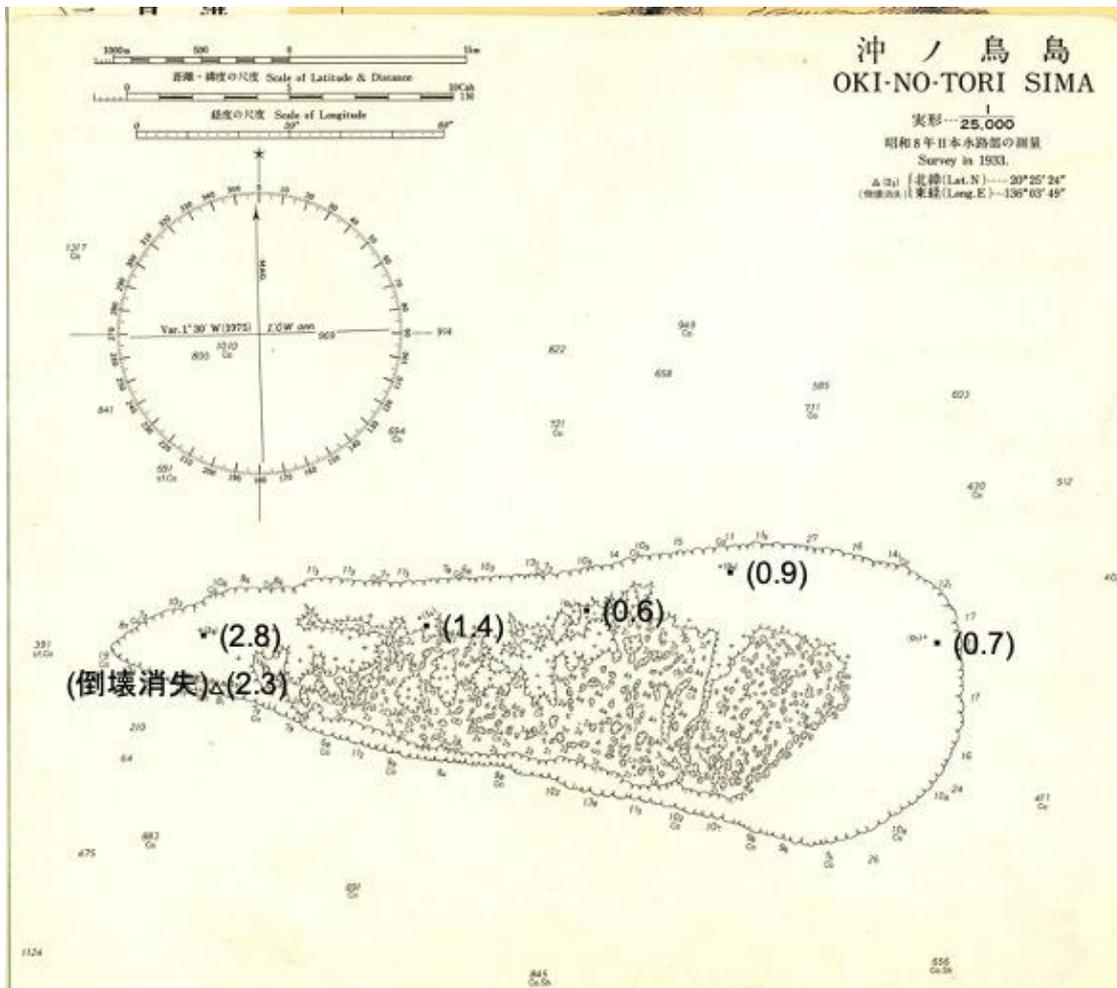


27. 沖ノ鳥島外礁礁原上の蕈状岩
 左方の岩は現在は無くならない。桑原技師が岩上で地磁気観測中。



28. 沖ノ鳥島外礁礁原上の露岩
 この岩はその後消失す。

田山利三郎 (1952) 『南洋群島の珊瑚礁』水路部報告, 11.



海図「南方諸島諸分図」(1926年)に、1975年に補正図として二見港分図の上に貼り付けた。1933年水路部の測量による(1933年水路部軍秘として刊行)。平均海面上、北小島2.8m,

東小島 1.4m と、倒壊消失したと記載される南小島 2.3m のほか、現在はみられない 1.4m, 0.6m, 0.9m, 0.7m の島の記載がある。

付表1 沖ノ島島で見られた造礁サンゴ類

Pocilloporidae (ハナヤサイサンゴ科)	ハナヤサイサンゴ (和名なし)
<i>P. damicornis</i>	イボハナヤサイサンゴ
<i>P. elegans</i>	ヘラジカハナヤサイサンゴ
<i>P. verticillata</i>	
<i>P. yakuoi</i>	
Acroporidae (ミドリイシ科)	
<i>Montipora tomentosus</i>	ノリコモンサンゴ
<i>M. furcata</i>	オオクボミコモンサンゴ
<i>M. tuberculosa</i>	ヒメイボコモンサンゴ
<i>M. wallis</i>	モリスコモンサンゴ
<i>M. nungensis</i>	アハタコモンサンゴ
<i>M. greenei</i>	アハタコモンサンゴ
<i>M. bipinnata</i>	トゴコモンサンゴ
<i>M. aligata</i>	スズメコモンサンゴ
<i>M. poliflorus</i>	イタイボコモンサンゴ
<i>M. incrustans</i>	(和名なし)
<i>Acropora</i> sp. 4?	(和名なし)
<i>A. globiceps</i> ?	マツゴミドリイシ
<i>A. labronoides</i>	スズミドリイシ
<i>A. elzei</i>	ハバノボミドリイシ?
<i>A. nana</i>	(和名なし)
<i>A. aculeata</i> ?	ウスエダミドリイシ
<i>A. elzei</i>	ハナノボミドリイシ
<i>A. cyathus</i>	コイボミドリイシ
<i>A. austra</i>	ササギミドリイシ?
<i>A. blanda</i> ?	(和名なし)
<i>A. murrayi</i> ?	
<i>A. sp. 4</i>	
<i>Acropora myriophthalma</i> ?	アナサザゴ
Poritidae (クマサンゴ科)	
<i>Porites lobata</i>	フカアハマサンゴ
<i>P. lutea</i>	コブハマサンゴ
<i>P. solida</i>	オオハマサンゴ
<i>P. masset</i>	スズハマサンゴ
<i>P. umae</i>	イハマサンゴ
<i>P. lichen</i>	ベニハマサンゴ
Siderastreae (キスリサンゴ科)	
<i>Psammocora hameana</i>	トグサミメサンゴ
<i>P. costigata</i>	サツコサミメサンゴ
Agariciidae (ヒラウキサンゴ科)	
<i>Parina varians</i>	シラウキコサンゴ
<i>P. elzei</i> ?	コモシラウキサンゴ
<i>P. abradeni</i>	(和名なし)
<i>P. ovaliformis</i>	モルツランコサンゴ
Fungidae (クマシラウキ科)	
<i>Fungia tenax</i>	クマシラウキ
Mussaieae (オオトサンゴ科)	
<i>Labophyllia curvirostris</i> ?	マルハトガサンゴ
<i>L. tenuis</i>	オオハトガサンゴ
Merulinidae (ササギサンゴ科)	
<i>Merulina ampliflora</i>	ササギサンゴ
<i>Scymnophyllia cylindrica</i>	オオササギサンゴ
Favidae (ホトケウシ科)	
<i>Favia infligera</i>	ホトケウシ
<i>F. pallida</i> ?	ウスホトケウシ
<i>F. fava</i> ?	スズホトケウシ
<i>F. muralis</i>	アツホトケウシ
<i>Favos halimora</i>	マダノホトケウシ
<i>F. flavus</i>	オオホトケウシ
<i>Phlogera alveolata</i>	ヒメノウサンゴ
<i>P. pita</i>	アガシサンゴ
<i>Laptaria phlogia</i>	マダホトケウシ
<i>Mitostrea curva</i>	クマクマホトケウシ
<i>M. valucanensis</i>	クマクマホトケウシ
<i>Laptaria purpurata</i>	クマクマホトケウシ
<i>Cyathostrea tenella</i>	リュウキウキサンゴ
<i>Echinostrea lamellosa</i>	オウキウキサンゴ
<i>E. goemae</i> ?	タイヨウリュウキウキサンゴ
<i>E. pacificus</i>	



付表1 (つづき) 沖ノ島島の礁池内におけるミドリイシ属の造礁サンゴ3種の生態写真、沖縄産の同種または類似種の生態写真およびそれらの付録標準の写真と所見



付表1 沖ノ島島の礁池内におけるミドリイシ属の造礁サンゴ3種の生態写真、沖縄産の同種または類似種の生態写真およびそれらの付録標準の写真と所見

林原ほか (2006) 沖ノ島島礁池内の造礁サンゴ. 東京都水産海洋研究報告, 1, 87-95.



Fig. 3. *Acropora tenuis*. Transplanted juvenile corals at Okinotorishima. Substrates with juvenile corals were fixed to the knolls (~5 m high) with steel rods and epoxy cement at a depth of ~6 m (at low tide)

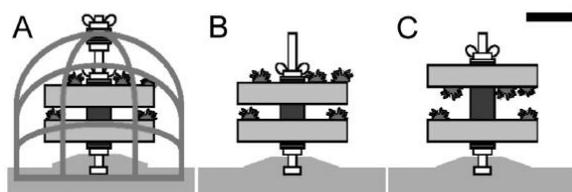


Fig. 4. *Acropora tenuis*. Examination of growth and survivorship of the juvenile corals using 3 types of transplantation methods. (A) Treatment A: substrates covered by a protection cage. (B,C) Treatments B and C: substrates without the protection cage. The corals on upper and lower substrates face upward in A and B, but face each other in C. Scale bar: 5 cm

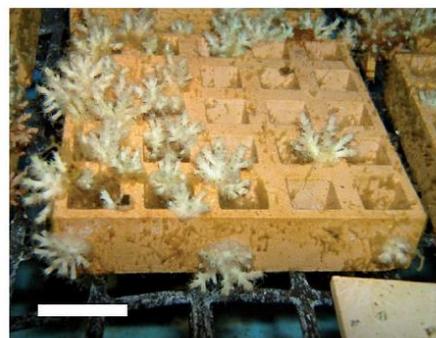


Fig. 2. *Acropora tenuis*. Larval settlement substrates with 10-mo-old juveniles immediately before transportation to Okinotorishima. Scale bar: 2 cm

Nakamura et al. (2011) Corals mass-cultured from eggs and transplanted as juveniles to their native, remote coral reef. *Marine Ecology Progress Series*, **436**, 161-168.

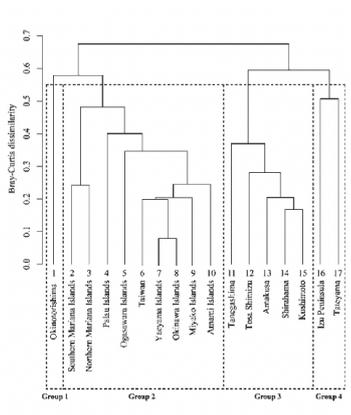


Fig. 3 Dendrogram from average linkage clustering of coral composition at 17 sites in the northwestern Pacific

Table 1 List of coral species at Okinotorishima (Okinotori Island)

Family	Genus	Species	Family	Genus	Species	Family	Genus	Species
Pocilloporidae			Poritidae			Favosidae		
Pocillopora			Porites			Favia		
Pocillopora damicornis			Porites astrea			Favia stelligera		
Pocillopora verrucosa			Porites lobata			Favia litae		
Pocillopora cyathoides			Porites australiensis			Favia pallida		
Pocillopora oligone			Porites litae			Favia divae		
Montipora			Porites murrayi			Favia orientalis		
Montipora subsericea			Porites cylindrica			Favia rotundata		
Montipora mollis			Porites lichen			Favos		
Montipora pulcherrima			Porites annua			Favos halimae		
Montipora rugosa			Porites rus			Favos flexuosus		
Montipora incrassata			Siderastrea			Favos complanata		
Montipora flocculata			Psammocora			Goniastrea		
Montipora calcicola			Psammocora acuta			Goniastrea divalva		
Montipora digitata			Psammocora haimeana			Goniastrea pectinata		
Montipora hispida			Psammocora profundicollis			Platygygia		
Montipora infans			Coccoloba			Platygygia daudkei		
Montipora effusca			Coccoloba columna			Platygygia sinensis		
Montipora grisea			Agassizella			Platygygia jishi		
Acropora			Favos			Platygygia costata		
Acropora granulosa			Favos clivus			Lepidastrea		
Acropora varveyi			Favos dianthus			Lepidastrea phrygia		
Acropora subulata			Favos sacrus			Mastastrea		
Acropora abrotanoides			Favos nana			Mastastrea curta		
Acropora muricata			Favos moldvensis			Mastastrea annuligera		
Acropora aspera			Goniastrea			Mastastrea valencianensis		
Acropora tenax			Goniastrea phaeocheila			Lepidastrea		
Acropora cyathoides			Fungia			Lepidastrea purpurata		
Acropora fraxinifera			Fungia acicularis			Lepidastrea prunosa		
Acropora latistella			Mussaenda			Ophastrea agassizi		
Acropora nana			Lobophyllia			Ophastrea sericea		
Acropora aculeata			Lobophyllia heptacantha			Ophastrea chalcidicum		
Acropora subulata			Lobophyllia varzebandi			Ophastrea microphthalma		
A. sp. aff. divaricata			Mercenaria			Echinopora		
Acropora elmsi			Mercenaria amplata			Echinopora lamellata		
Acropora muricata			Styoplylla			Echinopora gemmacea		
Acropora florida			Styoplylla			Richardsonia		
Acropora diadema			Styoplylla cylindrica			Richardsonia pacifica		
Acropora gibbosa			Thalassia			Diploria		
Acropora intermedia			Thalassia testudinum			Turbinaria		
Isopora			Milipora			Turbinaria reniformis		
Isopora pallida			Milipora polyphylla			Milipora		
Acropora			Milipora eximia			Milipora eximia		
Acropora								

relative abundance: a) abundant, c) common, u) uncommon, r) rare

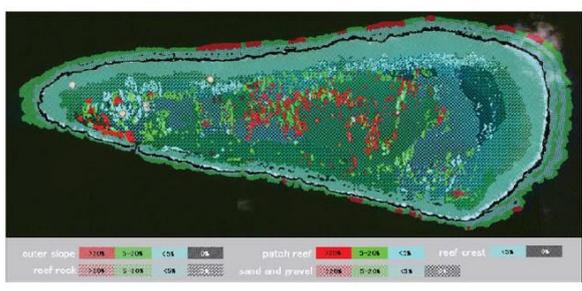


Fig. 4 Habitat map of Okinotorishima. Percent cover of living corals are shown by colors for each habitat

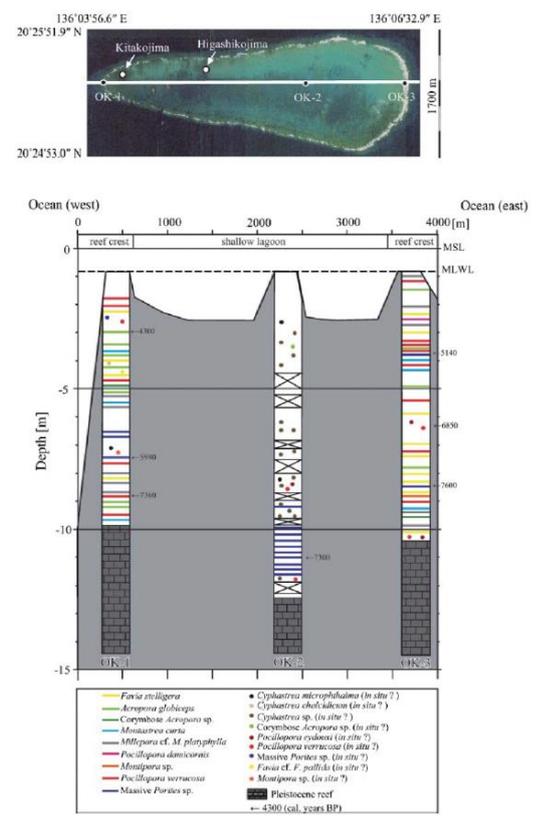
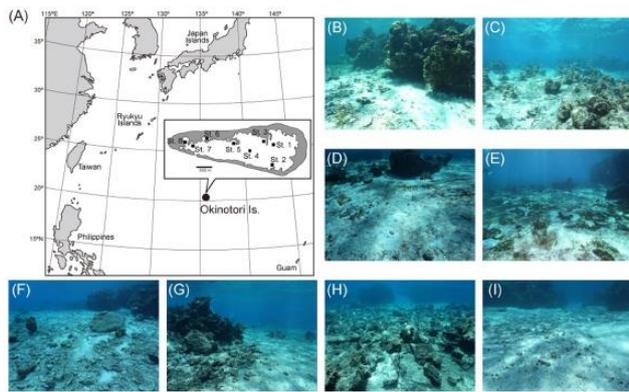
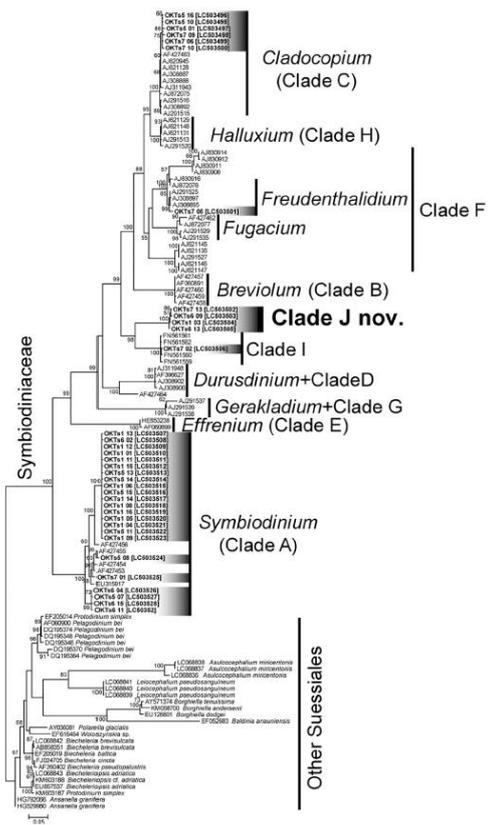


Fig. 5 Internal structure of sample cores and recovered fossil corals of the Holocene coral reef at Okinotorishima

Kayanne et al. (2012) Low species diversity of hermatypic corals on an isolated reef, Okinotorishima, in the northwestern Pacific. *Galaxea, Journal of Coral Reef Studies*, 14, 73-95.



Yorifuji et al. (2012) Unique environmental Symbiodiniaceae diversity at an isolated island in the northwestern Pacific. *Molecular Phylogenetics Evolution*, **161**, 107158.



To Mr. J. B. Moore
 Museum Library
 with the Author's
 Best Compliments
 C.H.
 1897
 2972

A Monograph of Marcus Island.
 BY WALTER ALANSON BRYAN, B.S.

PRELIMINARY NOTE.
 THE Trustees having been pleased to accept the offer of transportation tendered by Mr. W. C. Peacock in behalf of the Marcus Island (Guano) Company, authorized the writer, in the absence of the field collector, to undertake an expedition to Marcus Island in the interest of the Bishop Museum, to make a thorough investigation of the geology, zoology and botany of this remote island. The following paper contains the scientific results of the investigations made in the vicinity of and during a week's sojourn on the island. Owing to the presence of a party of Japanese, and the international complications resulting from both Japan and the United States claiming possession of the island, our stay was much more limited than had at first been planned. As a result, work on the marine zoology was curtailed to a considerable extent, and the collections made in all departments must be regarded as representative only. It has been thought advisable to restrict the present paper to the information gathered concerning Marcus Island, though much additional matter was collected which will appear in the form of an account of our visit to Midway Island.
 Grateful acknowledgments are due to the positions interested in the commercial enterprise which made this expedition possible. Their ever falling courtesy and generous assistance have done much to facilitate the work undertaken by the institution. In the proper connection I shall hope to acknowledge the kindly assistance of such distinguished specialists as Professor Silliman, Dr. Gilbert, Smith, Miss Kishibori and others to whom, as final authorities, I have referred various questions in manuscript. Thanks are due Director Brigham for such assistance and kindly suggestions with the pencil shown; and to Mr. Hedrick, who, as chemist of the Company, was my companion on the voyage, and who has added much to the accuracy and detail of the following

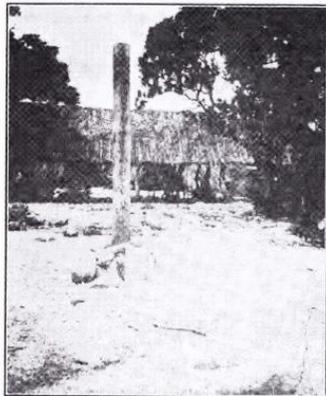
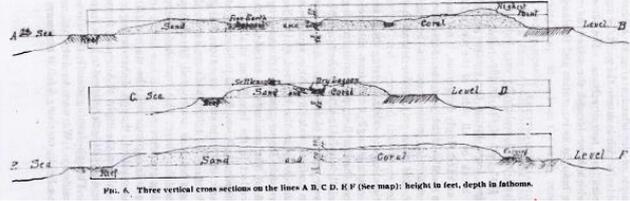
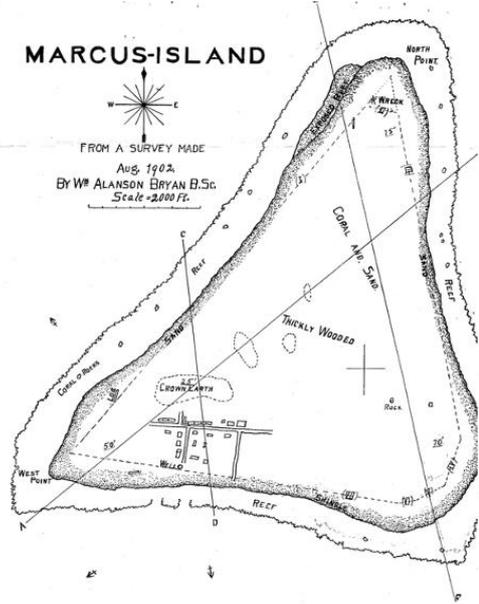
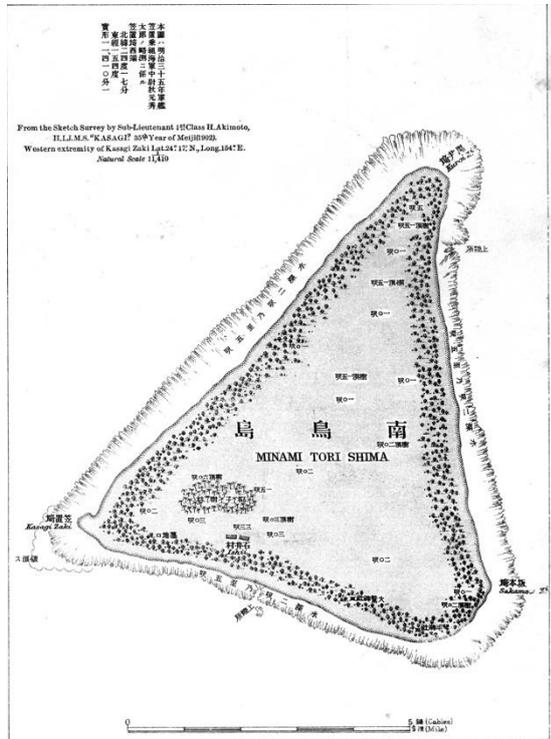


FIG. 1. Photographed from the beach in front of the settlement. Showing the wooden monument erected by the Government of Japan in 1903, which sets forth their claim to the island. The palm-thatched shed was used by the colony in preparing birds for fertilizer.



Bryan (1903) A monograph of Marcus Island, Occasional Papers, Bishop Museum, II, 77-139. 地形、動植物相についての総合的なモノグラフ。



海図「南方諸島」（1904年）に「南鳥島」分図として出版。1902年秋元秀太郎中尉の略測に係る。現在の地形図・海図と比べても精確である。

4) データベースの公開

データベースは、3月4日東京都沖ノ島・南島シンポジウムで紹介した後、東京大学総合研究博物館の博物館データベースにおいて公開する。原資料はすべて同博物館地理資料部門において保存し、必要に応じて希望者に提供する。同博物館は、様々な史資料の保存と公開をミッションとしており、同博物館のデータベースに登録することによって、半永久的に保存、提供することができる。提供については、それぞれの資料の帰属に従って、公開可の資料はリストから直接 pdf 資料にリンクできるようにする。その他、求めに応じて必要な様式で依頼を受けて提供するもの、提供不可のもの等を区分して、法規に従い、広くアクセスしやすいデータベースとして公開する。データは逐次追加できるようにする。

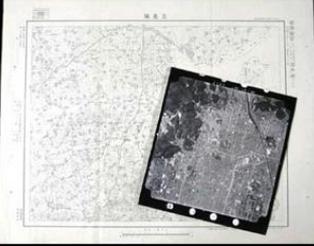
The screenshot shows the homepage of the University Museum, The University of Tokyo. The main banner features a photograph of an exhibition case titled 'UMUT Open Lab' with the subtitle 'HALL OF INSPIRATION 太陽系から人類へ'. The exhibition is dated '2021.12.16-' and lists opening days as '水曜日・木曜日・金曜日 限定開館'. The banner also includes the text '時を刻む先端研究 CHRONOSPHERE' and '学術標本の可能性 MACROSPHERE'. Below the banner is a navigation menu with links for '開館カレンダー', '小石川分館', 'インターメディアテク', 'TeNQ', 'モバイルミュージアム', '博物館データベース', 'ウロボロス', '刊行物リスト', '展示図録の販売', '標本資料報告の販売', '植物標本室', and '動画チャンネル'. There is also a section for 'ご寄付のお願い' (Request for donation) and 'お知らせ' (Notice).

東京大学総合研究博物館トップページ>研究活動>博物館データベース



博物館データベース>地理

地理



2011年3月11日津波被災地域の土地利用変遷
多田文男外邦図コレクション
古地図
太平洋島嶼地図
現生・化石サンゴ標本データベース
地理部門所蔵サンゴ礁コア試料データベース

© 東京大学総合研究博物館

東京大学総合研究博物館データベースTOP

地理>沖ノ島・南鳥島データベース

沖ノ鳥島・南鳥島データベース

沖ノ鳥島と南鳥島は、日本の南端と東端に位置する孤島であり、その周囲に 40万km² の排他的経済水域を持っている。沖ノ鳥島は日本で唯一熱帯に属する、南鳥島は唯一太平洋プレート上にある島であり、生物地理学的、地球科学的にも重要なフィールドである。さらに両島の周辺海域には、豊富な水産・鉱物資源が存在する。

両島における調査研究を促進するためには、両島においてこれまでに得られた科学的情報を収集・整理し、広く発信することが必要である。本データベースは、両島についてこれまでに公表された論文、報告書、書籍、学会要旨、記事と、地形図、海図、水路誌等を収集し、検索可能な形で東京大学総合研究博物館のウェブデータベースにアップしたものである。

公開可能な資料は、データベースから直接 pdf にリンクできるようになっている。著作権等の関係で公開できない資料も、東京大学総合研究博物館で閲覧することができる。

本データベースが広く活用され、沖ノ鳥島、南鳥島の調査研究が進むことを期待する。

[資料編ver1](#)

[地図・海図編](#)



データベースの作成は、東京大学海洋アライアンス「沖ノ鳥島・小島嶼国プログラム」が、東京都の委託を受けて行った。海洋アライアンス、同プログラムメンバーとメンバーでもある、国土交通省、水産庁や、海洋情報部ほか関係機関には、データの収集について格別のご配慮をいただいた。関係機関に心から感謝します。

データベースの形式として、現在下記の2通りを検討している。案1は見た目がよく、案2は機能性に優れている。

東京大学総合研究博物館 > 地理 > 沖ノ島・南鳥島データベース > 資料編

沖ノ島・南鳥島データベース 資料編

検索結果 251件中 1 - 20件を表示

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13

主分野

表示件数 → 20 表示 ソート → 表示

沖ノ島・南鳥島 < 13 > 論文 地理・地理	南鳥島および沖ノ島の地形と地質 長岡信治 小笠原研究年報 11, 88-95 1987	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 179 > 論文 生物・水産	小笠原漁場の魚礁とその発見 佐藤孫七 東海大学紀要海洋学部 12, 293-307 1979	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 1 > 報告書 地理・地理	南洋群島の珊瑚礁 田山利三郎 水路部報告, 11 別冊その1写真集292p; 別冊その2附図18,133p; 附表1 海上保安庁 1952	pdfあり 2003年に著作権切れ
沖ノ島・南鳥島 < 160 > 記事 地理・地理 島の保全	海洋フロンティアへの挑戦～真の海洋国家を目指して～ 荒金由典久 国土交通 3 (no.118),12-13 国土交通省 2012	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 191 > 記事 港湾・利活用	遠隔離島における活動拠点の整備 阿野 貴史 港湾 87(9),14-15 2010	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 197 > 記事 港湾・利活用	南鳥島及び沖ノ島における活動拠点の整備について 小野寺 清司 港湾 89(7),42-43 2012	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 198 > 記事 港湾・利活用	遠隔離島における活動拠点整備 菊地 弘之 港湾 90(6),22-23 2013	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 199 > 記事 港湾・利活用	遠隔離島における活動拠点整備 眞野 正樹 港湾 92(4),14-15 2015	pdfあり
沖ノ島・南鳥島 < 201 > 記事 地理・地理 島の保全 港湾・利活用	サンゴ礁からなる遠隔離島の生態工学的保全技術の開発 茅根 創 港湾 92(8),28-29 2015	pdfあり

東京大学総合研究博物館 | 地理

データベース形式 案1

東京大学総合研究博物館 > 地理 > 沖ノ島・南鳥島データベース > 資料編

沖ノ島・南鳥島データベース 資料編 ver2

検索結果 251件中 1 - 50件を表示

20 50 100 件毎表示

1 2 3 4 5 6

○: pdfあり △: pdf一部あり ●: コピー、書籍あり

項目クリック: ソート

番号	pdf	種別	沖ノ島	南鳥島	地理・地理	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル
13	○	論文	○	○	○								長岡信治	1987	南鳥島および沖ノ島の地形と地質
179	○	論文	○	○					○				佐藤孫七	1979	小笠原漁場の魚礁とその発見
1	○	報告書	○	○	○								田山利三郎	1952	南洋群島の珊瑚礁
160	○	記事	○	○		○							荒金由典久	2012	海洋フロンティアへの挑戦～真の海洋国家を目指して～
191	○	記事	○	○			○						阿野 貴史	2010	遠隔離島における活動拠点の整備
197	○	記事	○	○				○					小野寺 清司	2012	南鳥島及び沖ノ島における活動拠点の整備について
198	○	記事	○	○			○						菊地 弘之	2013	遠隔離島における活動拠点整備
199	○	記事	○	○			○						眞野 正樹	2015	遠隔離島における活動拠点整備
201	○	記事	○	○	○		○						茅根 創	2015	サンゴ礁からなる遠隔離島の生態工学的保全技術の開発
202	○	記事	○	○			○						榎村 忠之	2015	特定離島港湾における港湾管理体制の構築
204	○	記事	○	○			○						崎崎 賢太	2017	特定離島における活動拠点の整備・管理
205	○	記事	○	○			○						福永 浩二	2018	特定離島における活動拠点の整備・管理
206	○	記事	○	○			○						福永 浩二	2019	特定離島における活動拠点の整備・管理
207	○	記事	○	○			○						伊藤 伊樹	2020	特定離島における活動拠点の整備・管理
208	○	記事	○	○			○						坂本 典弘	2021	特定離島における活動拠点の整備・管理
209	○	記事	○	○			○						坂本 典弘	2022	特定離島における活動拠点の整備・管理
218	○	記事	○	○			○						出水孝征・小野寺清司	2014	特定離島「南鳥島」「沖ノ島」の港湾施設整備
12	○	書籍	○	○	○								貝塚真平	2000	南鳥島と沖ノ島
15	○	書籍	○	○	○								貝塚真平	1996	南鳥島と沖ノ島 日本の東端と南端のサンゴ礁
123	○	書籍	○	○	○								茅根 創	2004	国境のサンゴ礁
124	○	書籍	○	○	○								Kayanne, H	2004	Coral reefs on the border
126	●	書籍	○	○					○	○			浦野紀夫	2013	日本の国境 [分析・資料・文献]
130	●	書籍	○	○								○	山本浩一	2007	日本人が行けない「日本領土」一北方領土・竹島・尖閣諸島、南鳥島、沖ノ島上陸記

東京大学総合研究博物館 | 地理

データベース形式 案2

3. 1. 4 考察

1) 資料と地図出版の年代別変遷

沖ノ鳥島に関する資料は、戦前はほとんどない。唯一戦前の水路部の測量結果が、戦後 1950 年代に海図と水路部報告として公表された。それ以降、国土交通省京浜河川事務所が、島の保全に取り組みいくつかの記事で紹介している。2004 年に、海図の補刻や日本財団の民間調査団が現地調査を実施して、島の存在が広く知られるようになった。さらに、2006 年に水産庁のサンゴ増殖事業が開始された。また海洋政策財団に沖ノ鳥島研究会が、それと並行して東京大学に沖ノ鳥島勉強会が発足し、後者はその後、海洋アライアンス「沖ノ鳥島・小島嶼国プログラム」となった。東京都の沖ノ鳥島フォーラムも、2007 年に始められた。水産庁の事業の成果は、毎年多数の学会で報告されているが、論文、とくに英文の原著論文となったものは少ない。さらに、2010 年に「排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する法律（低潮線保全法）」が施行され、港湾施設の建設がはじまり、記事として紹介されている。しかし国による島の保全と港湾施設に関わる調査の科学的データは、記事以上にはほとんど公開されていない。

沖ノ鳥島の標高について、1933 年の測量による海図では、北小島、東小島がそれぞれ 2.8m, 1.4m で、そのほかに 3 島の存在と、消失した 1 島があるとされる。しかし 1991 年の改版以降は、2 島だけが記載され、1 m と 0.9m となっている。海図の潮位情報によれば、これは大潮の値の上、0.44m, 0.34m となる。さらに、同島の潮位情報は、島の内部で検潮された結果を用いているが、サンゴ礁では波の打ち上げ (wave set-up) によって、外洋より潮位が高くなることが分かっている。実際、本データベースにも収録した Ray et al. (2013) は、南鳥島の検潮記録が、衛星による海面水位より高いのは、サンゴ礁上への波の打ち上げによるものであると議論している。外洋の水位も、海流やエルニーニョ等で一定していない上に、国連海洋法条約でも「大潮」の定義を定めていない中で、沖ノ鳥島の高度を客観的な測地結果と検潮結果によって計測し、それを公開することが重要である。

南鳥島については、戦前 1902 年の日米の領有争い「南鳥島事件」の際に、その解説や同島の重要性などをうたった記事はでたが、米側は島の地形と生態に関するモノグラフを出版した一方で、日本の研究は散発的なものだった。2010 年以降、南鳥島にも港湾施設の建設が始められたが、こちらにも建設に伴う科学的データの公表は、記事以上にはみられない。一方で、2015 年以降、南鳥島周辺海域の海底鉱物資源（とくにレアアース）についての、英文論文が増えている。

2) データベースから明らかになった問題点

(1) 島の地形・生態に関する研究が、圧倒的に少ない。島の地形について、田山 (1952) がまとめた後、現地調査に基づく研究成果は、沖ノ鳥島について Kayanne et al. (2012) だけである。沖ノ鳥島のサンゴ相については、学会報告は多いものの論文になっているものは少ない。南鳥島に至っては、Bryan (1903) だけで、島の地形についても、サンゴ相についても現地調査

に基づく研究はまったくなされていない。同じ規模の卓礁であるにも関わらず、沖ノ鳥島には高い島がないが、南鳥島には標高9 mにもなる島がなぜあるのかという問いに答えられるデータはない。

(2) 省庁間の事業の連携が必要。 両島において、国土交通省京浜河川事務所と、同省の特定離島港湾事務所、水産庁が、それぞれ島の保全・維持、港湾施設の整備、サンゴの種苗生産を行っており、それぞれ学会要旨や記事として紹介されているが、総合的な研究として省庁間の連携が必要である。

(3) 国際発信が不足している。 英文の原著論文が、とくに沖ノ鳥島について少ない。**Web of Science** で沖ノ鳥島について検索した結果、32 の論文がヒットしたが、うち 12 は中国や韓国の研究者による沖ノ鳥島が島であることについて議論したものであった。

3. 1. 5 研究調査の成果（達成目標に対する到達度）、今後の展望

本研究事業の当初目的のうち、沖ノ鳥島と南鳥島のこれまでの資料（論文、報告書、学会要旨、記事、書籍）と、地図類（地形図、海図、水路誌）を、網羅的に収集して、整理し、公開する作業は、ほぼ達成することができた。まだ未整理の資料が残っており、それをこれからデータベースに取り込むが、結果と考察は大きく変わらないだろう。

一方で、資料を収集・整理して、「地生態工学的な島の保全・維持」について提案するという目的は、「両島の地生態学的な保全・維持を検討・提案するためには、地形・生態に関する研究が不足している」という結果になった。

この問題点をふまえて、今後は、両島の地形形成過程と、島をつくるサンゴ相とサンゴ礁生態系、島の海洋物理・海岸工学的な実態を、現地調査に基づいて解明して、国際的に発信することがどうしても必要である。

サンゴ礁とその上の州島は、サンゴが成長し、その礫が積み重なって造られた地形である。沖ノ鳥島のサンゴ礁は、30cm/100年の上方成長速度で、後氷期の海面変化（縄文海進）に追いついて形成された。また、ほぼ同じサイズのサンゴ礁からなる南鳥島は、サンゴ礫が標高9 mまで積み重なって島を造っている。サンゴの生態学的な造礁力を適用・促進して、サンゴ礁を海面上昇に追いつかせて防波機能を維持し、壊れたサンゴ礫を波の力で集積・堆積させて南鳥島のような島を造る、革新的な工学技術の構築が求められている。地球環境の激変に対して、工学的な対策工だけでなく、自然や生態系を活用した適応策が提案・実施されているが、サンゴ礁の活用はまだ具体化されていない。海面上昇に対するサンゴ礁と島の**地生態工学的適応技術**は、沖ノ鳥島と南鳥島で行われている様々な事業をつなぐだけでなく、生態・地学と海岸工学をつなぐ新しい分野の創成につながる。

4. まとめ

国として領土を維持することは、国土に関する客観的な科学的情報を収集して、それを国の内外に公開することが必要である。両島の科学的知見の乏しいことは、島へのアクセスが困難で研究者が自由に調査しにくいことによる。

東京都への貢献について、両島の問題は、島の地位という点では、実は伊豆諸島のベヨネーズ列岩、鳥島、小笠原諸島の北硫黄島、南硫黄島など、東京都の他の無人島とも共有する問題である。これらの島々は高潮位以上に十分な高さを持ち、伊豆・小笠原諸島の中において孤立していないため、島の地位の問題はないと考えられ、国や国民の関心は低い。経済活動や調査・研究、保全のための取り組みも十分とは言えない。これらの島々の名称や位置、存在を知っている人が、どれだけいるだろうか？しかしながら、国際的には十分な標高があっても積極的な関与（経済活動や保全活動）がなければ「島」とは見なされない例も多く、そうした仲裁裁判所による判定例もある。島の地位をめぐる国際法的・歴史的な情報も収集・整理して、公表することによって、東京都民の目が、遠隔離島を通じて都の他の無人島にも向くことを期待している。

さらに島の維持・保全を、太平洋小島嶼にも適用することによって、都民の目が、国境を越えて太平洋に広がることが期待される。小島嶼国の人々にとっての理想は、東京湾のように埋め立て・護岸された海岸をつくることにあると考える。しかしながら、東京都では、過度の埋め立てと自然破壊によって、生態系と生物資源（江戸前）の劣化、赤潮・青潮、親水機能の喪失などの深刻な問題が起こっていることを経験し、自然再生の取り組みが進んでいる。東京都が、沖ノ鳥島・南鳥島という小島嶼と同様の自然環境を持つ両島において、地生態工学的な海岸侵食・海面上昇対策をモデルとして示すことによって、東京都の取り組みを「我が国」・「我が都」の領土と排他的経済水域の維持という視点から、東京湾－伊豆・小笠原－国境離島を通じて、太平洋小島嶼との連携に眼差しを広げることができる。

5. 別添資料

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [資料篇]

別添資料2 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [地図篇]

別添資料3 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [英文篇]

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
----	-----	-------	-------	------	--------	----	-------	-----	-------	--------	----	-----	------	-------	-----	-------------------------	----	---------	----

沖ノ鳥島・南鳥島

(論文)

13	○	○									長岡信治	1987	南鳥島および沖ノ鳥島の地形と地質	小笠原研究年報	11, 88-95				
179	○						○				佐藤孫七	1979	小笠原漁場の魚礁とその発見	東海大学紀要海洋学部	12, 293-307				

(報告書) ※田山利三郎(1952)南洋群島の珊瑚礁 は、日本語版と英語版の2巻で1セット

1	○	○									田山利三郎	1952	南洋群島の珊瑚礁	水路部報告, 11	別冊その1 写真集292p; 別冊その2 附図18,133p; 附表1		海上保安庁		2003年に著作権切れ
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	------	----------	-----------	---	--	-------	--	-------------

(記事)

160	○	○		○							荒金由貴久	2012	海洋フロンティアへの挑戦～真の海洋国家を目指して～	国土交通	3 (no.118),12-13		国土交通省		
191	○				○						阿野 貴史	2010	遠隔離島における活動拠点の整備	港湾	87(9),14-15				
197	○				○						小野寺 清司	2012	南鳥島及び沖ノ鳥島における活動拠点の整備について	港湾	89(7),42-43				
198	○				○						菊地 弘之	2013	遠隔離島における活動拠点整備	港湾	90(6),22-23				
199	○				○						裏野 正樹	2015	遠隔離島における活動拠点整備	港湾	92(4),14-15				
201	○	○			○						茅根 創	2015	サンゴ礁からなる遠隔離島の生態工学的保全技術の開発	港湾	92(8),28-29				
202	○				○						植村 忠之	2015	特定離島港湾における港湾管理体制の構築	港湾	92(8),30-31				
204	○				○						嶋崎 賢太	2017	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	94, 25				
205	○				○						福永 浩二	2018	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	95, 27				
206	○				○						福永 浩二	2019	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	96, 26				
207	○				○						伊藤 直樹	2020	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	97, 30				
208	○				○						坂本 典弘	2021	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	98, 19				
209	○				○						坂本 典弘	2022	特定離島における活動拠点の整備・管理	港湾	99, 21				
218	○				○						出水孝征・小野寺清司	2014	特定離島「南鳥島」「沖ノ鳥島」の港湾施設整備	土木施工	55(2), 25-28				

(書籍)

12	○	○									貝塚爽平	2000	南鳥島と沖ノ鳥島	貝塚ほか編『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』	298-300		東京大学出版会		
15	○	○									貝塚爽平	1996	南鳥島と沖ノ鳥島 日本の東端と南端のサンゴ礁	中村和郎ほか編『日本の自然地域編8 南の島々』	56-57		岩波書店		
123	○	○									茅根 創	2004	国境のサンゴ礁	環境省・日本サンゴ礁学会編『日本のサンゴ礁』	22-23				
124	○	○									Kayanne, H	2004	Coral reefs on the border	Tha Japanese Coral Reef Society and Ministry of the Environment ed. "Coral Reefs of Japan"	20-21				

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
126	●							○	○		浦野起央	2013	日本の国境 [分析・資料・文献]	三和書籍	543p				
130	●									○	山本浩一	2007	日本人が行けない「日本領土」—北方領土・竹島・尖閣諸島・南鳥島・沖ノ鳥島上陸記	小学館	286p				
131	●									○	山本浩一	2011	誰も見たこともない日本の領土DVD—尖閣・竹島・北方四島・南鳥島・沖ノ鳥島・対馬・与那国島—報道写真家・山本浩一20年の軌跡	別冊宝島	112p, DVD				
236	●									○	山本浩一	2012	日本の国境を直視する2		222p		KKベストセラーズ		

沖ノ鳥島

(論文)

4	○						○				林原 毅・妹尾浩太郎・米山純夫	2006	沖ノ鳥島礁池内の造礁サンゴ	東京都水産海洋研究報告	1, 87-95		東京都島しょ農林水産総合センター	https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/archive/resources/content/829/20080825-174940.pdf	Open Access
5	○						○				Nakamura, R.; Ando, W.; Yamamoto, H.; Kitano, M.; Sato, A.; Nakamura, M.; Kayanne, H.; Omori, M.	2011	Corals mass-cultured from eggs and transplanted as juveniles to their native, remote coral reef	Marine Ecology Progress Series	436, 161-168	10.3354/meps09257	Inter-Research	https://www.int-res.com/articles/meps_oa/m436p161.pdf	Open Access
6	○	○					○				Kayanne, H., Hongo, C., Okaji, K., Ide, Y., Hayashibara, T., Yamamoto, H., Mikami, N., Onodera, K., Ootsubo, T., Tkaano, H., Tonegawa, M. and Maruyama, S.	2012	Low species diversity of hermatypic corals on an isolated reef, Okinotorishima, in the northwestern Pacific	Galaxea, Journal of Coral Reef Studies	14, 73-95	10.3755/galaxea.14.73	日本サンゴ礁学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/galaxea/14/1/14_73/pdf-char/en	Open Access
9	○							○			加地良太	2011	沖ノ鳥島をめぐる諸問題と西太平洋の海洋安全保障	立法と調査	No.321, 127-144		参議院事務局企画調整室	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2011pdf/20111003127.pdf	Open Access
27	○						○				三上信雄・安藤 亘・石岡昇・中村良太	2007	沖ノ鳥島発サンゴの保全・再生	みどりいし	18, 3-6			http://www.amsl.or.jp/midoriishi/18_02.pdf	Open Access
29	○						○				三上信雄・安藤 亘・石岡昇・大隅篤・山本秀一・北野倫生	2007	沖ノ鳥島周辺海域における水産利活用の促進	海洋開発論文集第23巻	23, 925-930	10.2208/prooe.23.925	土木学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/prooe1986/23/0/23_0_925/_article-char/ja/	Open Access
30	○						○				三上信雄・安藤 亘・石岡昇・中村良太・河野大輔・北野倫生	2007	沖ノ鳥島のサンゴの維持・拡大を目的とした種苗生産技術と増殖技術の開発	海洋開発論文集第23巻	23, 931-935	10.2208/prooe.23.931	土木学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/prooe1986/23/0/23_0_931/_article-char/ja/	Open Access
44	○						○				安藤 亘・渡邊浩二・田村真弓・三宅崇智・北野倫生・山本秀一	2009	サンゴ増殖基盤に必要な機能と構造に関する考察	海洋開発論文集	25, 461-466	10.18903/pamjsfe.2017.0_108	土木学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2017/0/2017_108/_pdf-char/en	Open Access
50	○						○				Miyaji, Kenji; Sato, Akito; Watanabe, Koki; Ando, Wataru; Ishioka, Noboru; Nakamura, Ryota; Yamamoto, Hidekazu; Watanuki, Akira	2010	Development of coral propagation technologies in Okinotorishima island	テクノオーシャン国際シンポジウム					
52	○						○				Ando, W.; Nakamura, R.; Yamamoto, H.	2010	Technical development of seed production and transplantation of corals by the Fisheries Agency, Japan	Proceedings of 2nd International Seminar on Islands and Oceans	p.31-38		Ocean Policy Reseach Foundation(日本財団)	https://www.spf.org/_opri_media/publication/pdf/ISBN978-4-88404-254-7.pdf	Open Access
54	○						○				Yorifuji, M.; Yamashita, H.; Suzuki, G.; Kawasaki, T.; Tsukamoto, T.; Okada, W.; Tamura, K.; Nakamura, R.; Inoue, M.; Yamazaki, M.; Harii, S.	2021	Unique environmental Symbiodiniaceae diversity at an isolated island in the northwestern Pacific	Molecular Phylogenetics Evolution	161, 107158	10.1016/j.ymp.2021.107158	Elsevier	https://link.springer.com/article/10.1007/s00190-021-01529-1	要購入
55	○						○				森健二・梅津健夫・安藤 亘・中村良太・北野倫生・山本秀一	2011	沖ノ鳥島における有性生殖によるサンゴ増殖技術の開発	第22回海洋工学シンポジウム論文集	OES22-088		日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会		

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
58	○						○				安藤 亘・中村良太・山本秀一・梅津建夫	2012	人工サンゴ増殖礁の開発	2012年度 日本水産工学会 学術講演会 講演論文集	p.107-108		日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2012/0/2012_107/_pdf-char/ja	Open Access
77	○						○				山本秀一・塚本拓人・川崎貴之・鈴木 豪・林原 毅・安藤 亘・中村良太・内田 智・中村浩介	2016	サンゴ幼生供給基地造成による積極的なサンゴ増殖技術	平成28年度日本水産工学会学術講演論文集	p.27-30	10.18903/pamjsfe.2016.0_27	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2016/0/2016_27/_article-char/ja/	Open Access
84	○						○				山本秀一・田村圭一・岡田亘・鈴木 豪・林原 毅・安藤 亘・不動雅之・朝倉邦友	2017	サンゴ幼生供給基地によるサンゴ礁再生のための技術開発	平成29年度日本水産工学会学術講演論文集	p.108-111	10.18903/pamjsfe.2017.0_108	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2017/0/2017_108/_article-char/ja/	Open Access
89	○						○				山本秀一・田村圭一・岡田 亘・完山暢・中村良太・小松俊晶・米澤泰雄・鈴木 豪・不動雅之・井上真仁	2021	有性生殖によるサンゴ増殖とサンゴの面的保全技術	令和3年度日本水産工学会学術講演論文集	p.129-132		日本水産工学会		Open Access
141	○	○									愛場政広・濱崎英夫	2002	沖ノ鳥島の変位（1999年2月～2002年2月）	国土地理院時報	99, 21-26		国土地理院	https://www.gsi.go.jp/common/000024725.pdf	Open Access
142	○	○									加藤照之・小竹美子・茶塚俊一・飯村友三郎・宮崎真一・金沢輝雄・末弘 潔	1996	沖ノ鳥島におけるGPS観測によって得られたフィリピン海プレートの運動について	測地学会誌	42, 233-243	10.11366/sokuchi1954.42.233		https://www.jstage.jst.go.jp/article/sokuchi1954/42/4/42_4_233/_article-char/ja/	Open Access
149	△							○			Beyong-cheol, Kang	2013	Ieodo, Okinotorishima and International Politics	The Journal of Peace Studies (평화학연구)	14(2), 99-118			https://www.kci.go.kr/kciportal/ci/sereArticleSearch/ciSereArtiView.kci?sereArticleSearchBean.artiId=ART001787861	
151	○							○			Fox, Senan	2016	The Senkaku Shoto/Diaoyu Islands and Okinotorishima disputes: Ideational and material influences	China Information	30(3), 312-333	10.1177/0920203X16665778		https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/0920203X16665778	Open Access
153	○				○		○				植田貴宏・西田哲也・大原順一・田中辰彦・浦 啓助・浦田和也・池上康之	2014	沖ノ鳥島海域における水産資源開発と海洋エネルギー利用のための海洋調査	水産大学校研究報告	62(2)75-83			http://www.amsl.or.jp/midoriishi/27_05.pdf 農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター	Open Access
154	○							○			Jee-Hyun Choi	2015	A Critical Analysis on the CLCS Recommendation on the Submission made by Japan and its Comments - Focusing on the evaluation on the Okinotorishima -	Maritime Law Review (해사법연구)	27(1), 1-24			https://www.kci.go.kr/kciportal/ci/sereArticleSearch/ciSereArtiView.kci?sereArticleSearchBean.artiId=ART001974626	Open Access
155	○	○	○								Komagome, T.; Watanabe, T.; Shirai, K.; Yamazaki, A.; Uematu, M.	2018	Geochemical and microstructural signals in giant clam <i>Tridacna maxima</i> recorded typhoon events at Okinotori Island, Japan	J. Geophysical Res. Biogeosci.	123, 1460-1474	10.1029/2017JG004082		https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/2017JG004082	Open Access
156	○	○	○								Yamazaki, A.; Watanabe, T.; Ogawa, N.O.; Ohkouchi, N.; Shirai, K.; Toratani, M.; Uematu, M.	2011	Seasonal variations in the nitrogen isotope composition of Okinotori coral in the tropical western Pacific: A new proxy for marine nitrate dynamics	J. Geophysical Res.	116, G4005	10.1029/2011JG001697		https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1029/2011JG001697	Open Access
174	○							○			Zhu Lijiang	2008	Chinese practice in public international law: 2007 (I)	Chinese J. International Law	7(2), 485-507	10.1093/chinesejil/jmn017		https://academic.oup.com/chinesejil/article-abstract/7/2/485/280724	要登録
175	○							○			Zhu Lijiang	2011	Chinese practice in public international law: 2010	Chinese J. International Law	10(2), 427-468	10.1093/chinesejil/jmr013;		https://academic.oup.com/chinesejil/article-abstract/10/2/427/349071	要登録
181	○				○		○				Mizumukai, K.; Sato, T.; Tabeta, S.; Kitazawa, D.	2008	Numerical studies on ecological effects of artificial mixing of surface and bottom waters in density stratification in semi-enclosed bay and open sea	Ecological Modelling	214, 251-270	10.1016/j.ecolmodel.2008.02.023	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0304380008000793	要購入

(報告書)

2	●	○		○	○		○	○			沖ノ鳥島研究会	2005	沖ノ鳥島再生計画		45p+資料74p		ジップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究所	https://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2004/00767/pdf/okinotorishima_hyoshi.pdf	
19	○	○	○	○			○	○			海洋政策研究財団	2007	平成18年度沖ノ鳥島の維持再生に関する調査研究報告書		107p		団(財団法人ジップ・アンド・オーシャン財団)	https://www.spf.org/_opri_media/publication/pdf/200703_ISBN978_4_88404_189_2.pdf	Open Access

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
133	●	○		○							沖ノ鳥島災害復旧工事誌編集委員会編	1994	沖ノ鳥島災害復旧工事誌	建設省関東地方整備局京浜工事事務所	425p.				
134	●	○		○				○			沖ノ鳥島研究会	2006	平成17年度 沖ノ鳥島の維持再生に関する調査研究報告書	海洋政策研究財団					
135	●	○		○				○			沖ノ鳥島研究会	2007	平成18年度 沖ノ鳥島の維持再生に関する調査研究報告書	海洋政策研究財団					
136	●	○		○				○			沖ノ鳥島研究会	2008	平成19年度 沖ノ鳥島の維持再生に関する調査研究報告書	海洋政策研究財団					
137	●	○		○				○			沖ノ鳥島研究会	2009	平成20年度 沖ノ鳥島の維持再生に関する調査研究報告書	海洋政策研究財団					
145		○									濱崎英夫・平井英明・愛場政広	2002	沖ノ鳥島における近年の変動量（平成10年度～13年度）	国土地理院技術報告書					
146		○									丸山一司・井上武久	1999	沖ノ鳥島における一等三角点（東露岩）の成果算出について	国土地理院技術報告書					
148	○	○	○									1942	沖ノ鳥島に関する調書	中央氣象臺秘密氣象報告	1(4), 303-375				著作権切れ
216	○						○				米山純夫・妹尾浩太郎・前田洋志・小埜田明・林原 毅	2006	沖ノ鳥島サンゴ礁の海洋動物	東京都水産海洋研究報告	1, 73-85		東京都島しょ農林水産総合センター		

(記事)

3	○			○				○			福島朋彦	2006	沖ノ鳥島再生計画ー現状と課題ー	みどりいし	17, 20-23			http://www.amsl.or.jp/midoriishi/17_05.pdf	Open Access
49	○						○				中村良太・安藤 亘・石岡昇・内田智・中村浩介	2016	沖ノ鳥島発サンゴの保全・再生Ⅱー技術開発の進捗についてー	みどりいし	27, 5-9			https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030921739.pdf	Open Access
138	○	○			○				○		進士 晃	1970	沖ノ鳥島	海洋科学	3, 65-69				
139	○				○						佐藤智之	1955	沖ノ鳥島秘聞	港湾	32(11), 9-12				
140	○						○				倉田洋二	1986	熱帯の海 沖ノ鳥島	海中公園情報	70・71, 9-13				
147	○	○			○						須田皖次	1958	沖ノ鳥島夢物語	燈光	昭和33年7月号, 33-39				
157	○	○			○						丸山将吾	2009	沖ノ鳥島保全事業で人事院総裁賞を受賞	河川	750, 108-109		(社) 日本河川協会		
158	○	○			○						鈴木研司	2009	人事院総裁賞の受賞について	海岸	48, 97-99		(社) 全国海岸協会		
159	○	○			○						元永秀	2010	沖ノ鳥島直轄管理10年	海岸	49, 38-40		(社) 全国海岸協会		
161	○	○			○						荒金由貴久	2014	国土を守る土木 沖ノ鳥島の海岸保全ー日本最南端の孤島における厳しい環境下での工事ー	土木施工	55(2), 23-24		(株) オフィス・スペース		
162	○	○			○						野本粹浩	2015	沖ノ鳥島の保全	河川	829, 8-9				
163	○	○			○						田村匡弘, 堀越直哉	2015	沖ノ鳥島を保全するための維持工事について	河川	829, 10-13		(社) 日本河川協会		
164	○	○			○						青野裕子	2015	沖ノ鳥島フォーラムについて	河川	829, 13-15				
165	○	○			○		○				中村浩介	2015	沖ノ鳥島におけるサンゴ増殖技術の開発	河川	829, 16-21				
166	○	○			○						桑島偉倫	2015	「低潮線保全法」と近年の離島の保全・管理に関する取組	河川	829, 22-25				
167	○	○			○		○				茅根 創	2015	沖ノ鳥島の生態工学的保全	河川	829, 29-33				

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
168	○	○		○							澁谷慎一	2019	沖ノ鳥島直轄管理20年	河川	877, 53-56		(社) 日本河川協会		
169		○		○							澁谷慎一	2019	沖ノ鳥島直轄管理20年	沿岸域学会誌	32 (2),21-24		日本沿岸域学会		
170	○	○		○							澁谷慎一	2019	沖ノ鳥島について 直轄による保全・管理の強化	海岸	56, 44-47		(社) 全国海岸協会		
171	○	○		○							澁谷慎一	2020	沖ノ鳥島の管理-直轄による保全・管理の強化-	土木技術	75(9), 25-28		土木技術社		
188	○				○						角湯克典	2005	沖ノ鳥島における国土保全・管理について	港湾	82(10),18-20				
189	○				○			○			山田勝彦	2005	コラム我が国の領土問題等 北方領土 沖ノ鳥島 尖閣諸島 竹島領有権問題 東シナ海大陸棚問題	港湾	82(10),21				
192	○				○	○					木川 栄一	2012	日本周辺海域の海底資源への取り組みと遠隔離島	港湾	89(7),10-11				
193	○				○			○			茅根 創・加々美 康彦	2012	沖ノ鳥島の管理・利活用は国際公益の大義のもとに	港湾	89(7),14-15				
195	○				○		○				村松 由梨	2012	東京都の沖ノ鳥島における取り組み	港湾	89(7),18-19				
196	○				○						清宮 理	2012	沖ノ鳥島における港湾工事の施工について	港湾	89(7),26-27				

(学会要旨)

10	○	○		○	○			○			加々美康彦・福島朋彦	2005	沖ノ鳥島の持続可能な利用に向けた予察的検討	第18回海洋工学シンポジウム講演要旨			日本造船学会		
20	○						○				林原 毅・北野倫生・三上信雄・安藤 亘・石岡 昇・河野大輔	2006	沖ノ鳥島におけるミドリイシ属イシサンゴ5種の産卵期の推定	平成18年度日本水産学会講演要旨集	p.285		日本水産学会		
21	○						○				三上信雄・安藤亘・石岡昇・河野大輔	2006	沖ノ鳥島のサンゴの種苗生産と増殖計画	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.70		日本サンゴ礁学会		
22	○						○				北野倫生・山本秀一・三上信雄・安藤亘・河野大輔	2006	沖ノ鳥島のサンゴの広域調査	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.89		日本サンゴ礁学会		
23	○						○				青田徹・綿貫啓・三上信雄・中村良太・石岡昇・河野大輔	2006	船上で採卵した沖ノ鳥島産Acropora tenuisの種苗生産	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.93		日本サンゴ礁学会		
24	○						○				中村良太・三上信雄・安藤亘・石岡昇・綿貫啓・河野大輔	2006	水槽内におけるサンゴ種苗生産の試み	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.103		日本サンゴ礁学会		
25	○						○				山本秀一・北野倫生・青田徹・安藤亘・石岡昇・三上信雄・河野大輔	2006	サンゴ群体の船舶による長距離運搬技術の開発	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.133		日本サンゴ礁学会		
26	○						○				深見裕伸・林原毅・三上信雄・安藤亘・石岡昇・河野大輔	2006	ミトコンドリア遺伝子による沖ノ鳥島と沖縄産のミドリイシ数種の比較	日本サンゴ礁学会第9回大会要旨集	p.138		日本サンゴ礁学会		
28	○						○				林原 毅・石岡 昇・安藤 亘・中村良太・北野倫生・綿貫 啓・青田徹・三上信雄	2007	沖ノ鳥島におけるミドリイシ属イシサンゴの産卵パターン	平成18年度日本水産学会講演要旨集	p.253				
31	○						○				安藤 亘・渡邊浩二・藤田孝康・石岡 昇・三上信雄・佐藤昭人	2007	沖ノ鳥島におけるサンゴ増殖技術の開発	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.38		日本サンゴ礁学会		
32	○						○				高尾敏幸・白木喜章・柴木秀之・安藤 亘・三上信雄	2007	沖ノ鳥島の流動特性とサンゴの分布特性	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.76		日本サンゴ礁学会		
33	○						○				綿貫 啓・青田 徹・藤田孝康・安藤 亘・三上信雄	2007	沖ノ鳥島でのサンゴ種苗の確保	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.89		日本サンゴ礁学会		
34	○						○				中村良太・渡邊浩二・藤田孝康・安藤 亘・石岡 昇・北野倫生	2007	水槽内におけるサンゴ種苗生産	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.90		日本サンゴ礁学会		

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
35	○						○				北野倫生・三宅崇智・山本秀一・藤田孝康・安藤 亘・石岡 昇	2007	沖ノ鳥島のサンゴの広域分布と新規加入特性	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.91		日本サンゴ礁学会		
36	○						○				深見裕伸・林原毅・北野倫生・石岡 昇・三上信雄	2007	沖ノ鳥島の中ドリイシサンゴはどこから来たのか?	日本サンゴ礁学会第10回大会要旨集	p.92		日本サンゴ礁学会		
37	○						○				Mikami, Nobuo; Yamamoto, Hidekazu; Kitano, Michio; Takao, Toshiyuki; Nalayama, Akiyoshi; Ando, Wataru	2008	Coral growth processes and environmental conditions around Okinotorishima Island, Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts	-				
38	○						○				Ando, Wataru; Watanabe, Kouji; Nakamura, Ryota; Ishioka, Noboru; Mikami, Nobuo; Sato, Akito	2008	Coral habitat expansion project around Okinotorishima, Southernmost island of Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts					
39	○						○				Nakamura, Ryota; Watanuki, Akira; Aota, Toru; Kitano, Michio; Fujita Takayasu	2008	Seed production of Acropora corals of Okinotorishima, Southernmost island of Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts					
40	○						○				佐藤 昭人・渡邊 浩二・中村 良太・安藤 亘・石岡 昇	2008	有性生殖手法による沖ノ鳥島のサンゴ増殖	日本サンゴ礁学会第11回大会要旨集	p14		日本サンゴ礁学会		
41	○						○				田村 真弓・渡邊 浩二・安藤 亘・三宅 崇智・北野 倫生	2008	サンゴ増殖礁の開発	日本サンゴ礁学会第11回大会要旨集	p133		日本サンゴ礁学会		
42	○						○				北野倫生・山本秀一・渡邊浩二・青田 徹・田村真弓	2008	沖ノ鳥島産稚サンゴ6万群体の移設	日本サンゴ礁学会第11回大会要旨集	p135		日本サンゴ礁学会		
43	○						○				中村良太・渡邊浩二・安藤 亘・石岡 昇・田村真弓	2008	サンゴ種苗生産用着生基盤の改良	日本サンゴ礁学会第11回大会要旨集	p134		日本サンゴ礁学会		
45	○						○				北野倫生・三宅崇智・山本秀一・中泉昌光・安藤 亘・石岡 昇・森健二	2009	沖ノ鳥島稚サンゴの移植1年間のモニタリング結果	日本サンゴ礁学会第12回大会要旨集	p.140		日本サンゴ礁学会		
46	○						○				三宅崇智・北野倫生・山本秀一・中泉昌光・安藤 亘・石岡 昇・森健二	2009	魚類による稚サンゴへの食害状況について	日本サンゴ礁学会第12回大会要旨集	p.141		日本サンゴ礁学会		
47	○						○				中村良太・石岡 昇・森 健二・中村 誠	2009	サンゴ種苗生産の現状と課題	日本サンゴ礁学会第12回大会要旨集	p.144		日本サンゴ礁学会		
48	○						○				中村 誠・森 健二・中村良太・安藤 亘・石岡 昇・山本秀一・北野倫生・綿貫 啓・青田 徹・三上信雄	2009	「有性生殖によるサンゴ増殖の手引き」について	日本サンゴ礁学会第12回大会要旨集	p.150		日本サンゴ礁学会		
51	○						○				Omori, Makoto; Yamamoto, Hidekazu; Nakamura, Ryota; Ando, Wataru; Kitano, Michio; Mori, Kenji; Kayanne, Hajime	2010	Coral mass-cultured from eggs and transplanted as juvenile to their native coral reef	The Second Asia Pacific Coral Reef Symposium, Program and abstracts	p.106				
53	○						○				川崎貴之・北野倫生・山本秀一・中村良太・石岡 昇・安藤 亘・森健二	2010	沖ノ鳥における5年間のサンゴ群集の成長過程	日本サンゴ礁学会第13回大会要旨集	107p		日本サンゴ礁学会		
56	○						○				北野倫生・川崎貴之・山本秀一・安藤 亘・中村良太・石岡 昇・三上信雄	2011	沖ノ鳥島産稚サンゴの移植3年間のモニタリング調査	日本サンゴ礁学会第14回大会要旨集	p.152		日本サンゴ礁学会		
57	○						○				安藤 亘・中村良太・山本秀一・三上信雄	2011	人工サンゴ増殖礁開発の試み	日本サンゴ礁学会第14回大会要旨集	p.157		日本サンゴ礁学会		
59	○						○				Mikami, N.; Umedu, T.; Ando, W.; Nakamura, R.; Kitano, M.; Yamamoto, H.	2012	Coral-reef restoration by transplantation of cultured juveniles to artificial reefs	12th International Coral Reef Symposium Abstracts	p.527-528				
60	○						○				三上信雄・小森健史・間辺本文・安藤 亘・山本秀一・川崎貴之	2012	沖ノ鳥島におけるサンゴ群集の長期モニタリング結果	日本サンゴ礁学会第15回大会要旨集	p.30		日本サンゴ礁学会		

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
61	○						○				川崎貴之・山本秀一・安藤亘・小森健史	2013	沖ノ鳥島礁内におけるサンゴの経年変化について	2013年度 日本水産工学会 学術講演会 講演論文集	p.137-140		日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2013/0/2013_137/_pdf-char/ja	Open Access
62	○						○				川崎貴之・山本秀一・中村良太・安藤 亘・間辺本文・西崎孝之・小森健史	2013	沖ノ鳥島に移植したサンゴの成長と産卵	日本サンゴ礁学会第16回大会要旨集	p.69		日本サンゴ礁学会		
63	○						○				岡田亘・岩村俊平・鈴木豪・林原毅・安藤亘・江河直人・西崎孝之・小森健史	2013	サンゴ幼生収集装置の開発	日本サンゴ礁学会第16回大会要旨集	p.100		日本サンゴ礁学会		
64	○						○				Casareto, Beatriz E.; Ohba, Hideo; Yamamoto, Hidekazu; Kawasaki, Takayuki; Uehara, Sunao; Suzuki, Yoshimi	2013	Primary production and atmospheric N2 fixation of cyanobacteria forming mats from Okinotorishima	日本サンゴ礁学会第16回大会要旨集	p.64		日本サンゴ礁学会		
65	○						○				加藤英紀・米澤泰雄・片山美可・安藤亘・藤田孝康・小森健史	2013	沖ノ鳥島礁内における魚類の蛸集に関するサンゴと海藻の分布について	日本サンゴ礁学会第16回大会要旨集	p.110		日本サンゴ礁学会		
66	○	○					○				片山悦治郎・米澤泰雄・小松俊晶・山本秀一・安藤亘・西崎孝之・渡邊則仁	2014	サンゴ生息状況及び生息環境条件の重ね合わせによる沖ノ鳥島のサンゴ再移植適地検討	平成26年度日本水産工学会学術講演論文集	p.129-132		日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2014/0/2014_129/_pdf-char/ja	
67	○						○				白木喜章・山本秀一・片山悦治郎・安藤亘・西崎孝之・渡邊則仁	2014	沖ノ鳥島におけるサンゴ幼生追跡シミュレーション	平成26年度日本水産工学会学術講演論文集	p.133-136	10.18903/pamjsfe.2014.0_133	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2014/0/2014_133/_article-char/ja/	Open Access
68	○	○					○				片山美可・森田太一・鈴木久美子・米澤泰雄・片山悦治郎・山野博哉・安藤亘・西崎孝之・渡邊則仁	2014	サンゴの分布拡大のための時系列な高分解能衛星画像を用いた沖ノ鳥島のサンゴの把握	日本リモートセンシング学会第56回学術講演会論文集	p.93-94		日本リモートセンシング学会	http://www.rssj.or.jp/wp-content/uploads/2016/02/u10_56_H26.pdf	Open Access
69	○	○					○				片山美可・森田太一・鈴木久美子・米澤泰雄・片山悦治郎・山野博哉・安藤亘・西崎孝之・渡邊則仁	2014	高分解能衛星画像による沖ノ鳥島サンゴ被度変化の特性	日本リモートセンシング学会第57回学術講演会論文集	p.107-108		日本リモートセンシング学会	https://www.rssj.or.jp/wp-content/uploads/2016/02/u08_57_H26.pdf	Open Access
70	○	○					○				片山悦治郎・米澤泰雄・小松俊晶・山本秀一・安藤亘・吉塚靖浩・西崎孝之・渡邊則仁	2014	GISを用いたサンゴ生息状況及び生息環境条件の重ね合わせによる沖ノ鳥島のサンゴ移植適地検討	日本サンゴ礁学会第17回大会要旨集	p.35		日本サンゴ礁学会		
71	○						○				岡田亘・川崎貴之・鈴木豪・林原毅・安藤亘・石岡昇・西崎孝之・渡邊則仁	2014	沖ノ鳥島における現地種苗生産手法による増殖技術の開発	日本サンゴ礁学会第17回大会要旨集	p.76		日本サンゴ礁学会		
72	○						○				水本健・片山悦治郎・米澤泰雄・小松俊晶・安藤亘・吉塚靖浩・西崎孝之・渡邊則仁	2014	沖ノ鳥島礁内のノルへのサンゴ移植手法について	日本サンゴ礁学会第17回大会要旨集	p.100		日本サンゴ礁学会		
73	○						○				山本秀一・田村圭一・塚本拓人・安藤亘・吉塚靖浩・西崎孝之・渡邊則仁	2014	水温変動が沖ノ鳥島のミドリイシ属サンゴに及ぼす影響	日本サンゴ礁学会第17回大会要旨集	p.109		日本サンゴ礁学会		
74	○						○				塚本拓人・川崎貴之・山本秀一・安藤亘・吉塚靖浩・西崎孝之・渡邊則仁	2015	沖ノ鳥島礁内におけるサンゴ移植技術の開発	平成27年度日本水産工学会学術講演論文集	p.85-88	10.18903/pamjsfe.2015.0_85	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2015/0/2015_85/_article-char/ja/	Open Access
75	○						○				岡田亘・山本秀一・塚本拓人・鈴木豪・林原毅・安藤亘・石岡昇・西崎孝之・渡邊則仁	2015	沖ノ鳥島におけるサンゴの現地種苗生産技術の開発	平成27年度日本水産工学会学術講演論文集	p.89-90	10.18903/pamjsfe.2015.0_89	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2015/0/2015_89/_article-char/ja	Open Access
76	○	○					○				片山悦次郎・米澤泰雄・小松俊晶・安藤 亘・内田 智・中村浩介	2015	沖ノ鳥島におけるサンゴの面的移植とその経過報告	日本サンゴ礁学会第17回大会要旨集	p.115		日本サンゴ礁学会		
78	○						○				片山悦治郎・米澤泰雄・小松俊晶・安藤 亘・内田 智・中村浩介	2016	サンゴ幼生供給基地を活用した移植手法の開発	平成28年度日本水産工学会学術講演論文集	p.35-36	10.18903/pamjsfe.2016.0_35	日本水産工学会	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2016/0/2016_35/_article-char/ja/	Open Access

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
79	○						○				Katayama, E.; Yonezawa, Y.; Komatsu, T.; Ando, W.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Coral transplant suitability study of Okinotorishima by the superposition of coral distribution and habitat condition.	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.169				
80	○						○				Yamamoto, H.; Suzuki, G.; Ando, W.; Nakamura, R.; Kayanne, H.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Intensive coral reef restoration technology by applying larval supply base	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.379				
81	○	○					○				Yonezawa, Y.; Katayama, E.; Katayama, M.; Suzuki, K.; Komatsu, T.; Ando, W.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Coral distribution mapping of Okinotorishima using time-series high resolution satellite imagery	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.382				
82	○	○					○				片山悦治郎・本田謙一・米澤泰雄・安藤 亘・朝倉邦友・不動雅之	2016	水中ビデオ雄画像を用いたサンゴ被度解析	日本サンゴ礁学会第19回大会要旨集	p.20		日本サンゴ礁学会		
83	○						○				塚本拓人・田村圭一・山本秀一・安藤 亘・石岡 昇・朝倉邦友・不動雅之	2016	沖ノ鳥島のサンゴ群集の遷移	日本サンゴ礁学会第19回大会要旨集	p.86		日本サンゴ礁学会		
85	○						○				片山悦治郎・小松俊晶・米澤泰雄・安藤 亘・不動雅之	2017	沖ノ鳥島におけるサンゴの移植	日本サンゴ礁学会第20回大会要旨集	p.131		日本サンゴ礁学会		
86	○	○					○				Katayama, E.; Komatsu, T.; Yonezawa, Y.; Katayama, M.; Ando, W.; Fudo, M.	2018	Developing a method to grasp coral reefs through remote sensing technology.	PIANC-World Congress	p.1-7		World Congress PIANC/ACP	https://coms.events/pianc-panama/data/full_papers/full_paper_48.pdf	Open Access
87	○	○					○				片山悦治郎・小松俊晶・米澤泰雄・完山暢・不動雅之	2018	リモートセンシング技術を用いたサンゴ礁把握手法の開発	日本サンゴ礁学会第21回大会要旨集	p.43		日本サンゴ礁学会		
88	○						○				山本秀一・田村圭一・高尾敏幸・岡田亘・完山暢・不動雅之	2018	有性生殖によるサンゴ増殖技術の開発	日本サンゴ礁学会第21回大会要旨集	p.65		日本サンゴ礁学会		
150					○						Watanabe, Y., Yoshida, K., Nambara, T.	2014	Ocean city planning in the waters of Okinotorishima	33rd ASME International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering					

(書籍)

132	●									○	大石英治	2005	沖ノ鳥島爆破指令	中央公論新社 C★NOVELS	227p				
212	●									○	Sharp, A.	1960	The Discovery of the Pacific Islands		259p		Oxford University Press		
219	●									○	さいとうたかを	2004	ゴルゴ13 消滅海域	ビッグコミック増刊	83				

南鳥島

(論文)

11	○	○									小西健二	1988	日本における学術ポーリング候補地(1) 南鳥島(マーカス島)	月刊地球	10, 237-246		海洋出版株式会社		
16	○						○				Takaya, Y.; Yasukawa, K.; Kawasaki, T.; Fujinaka, K.; Ohta, J.; Usui, Y.; Nakamura, K.; Kimura, J.; Chang, Q.; Hamada, M.; Dodbiba, G.; Nozaki, T.; Iijima, K.; Morisawa, T.; Kuwahara, T.; Ishida, Y.; Ichimura, T.; Kitazume, M.; Fujita, T.; Kato, Y.	2018	The tremendous potential of deep-sea mud as a source of rare-earth elements.	Scientific Reports	4.335416667	10.1038/s41598-018-23948-5	https://www.nature.com/articles/s41598-018-23948-5	Open Access	
17	○						○				Iijima, K.; Yasukawa, K.; Fujiwara, K.; Nakamura, K.; Machida, S.; Takaya, Y.; Ohta, J.; Haraguchi, S.; Nishio, Y.; Usui, Y.; Nozaki, T.; Yamazaki, T.; Ichiyama, Y.; Ijiri, A.; Inagaki, F.; Machiyama, H.; Suzuki, K.; Kato, Y.; KR13-02 Cruise Members	2016	Discovery of extremely REY-rich mud in the western North Pacific Ocean	Geochemical Journal	50, 557-573	10.2343/geochemj.2.0431	https://www.jstage.jst.go.jp/article/geochemj/50/6/50_2.0431/_article	Open Access	

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開	
18	○					○					Fujinaga, K.; Yasukawa, K.; Nakamura, K.; Machida, S.; Takaya, Y.; Ohta, J.; Arai, S.; Liu, H.; Usami, R.; Maki, R.; Haraguchi, S.; Nishio, Y.; Usui, Y.; Nozaki, T.; Yamazaki, T.; Ichiyama, Y.; Ijiri, A.; Inagaki, F.; Machiyama, H.; Iijima, K.; Suzuki, K.; Kato, Y.; KR13-02, MR13-E02 Leg 2 and KR14-02 Cruise Members	2016	Geochemistry of REY-rich mud in the Japanese exclusive economic zone around Minamitorishima Island	Geochemical Journal	50, 575-590	10.2343/geochemj.2.0432		https://www.jstage.jst.go.jp/article/geochemj/50/6/50_2.0432/_article	Open Access	
90	○						○				Sakagami, S.F.	1961	An ecological perspective of Marcus Island, with special reference to land animals	Pacific Science	15(1), 82-104			https://scholarspace.manoa.hawaii.edu/server/api/core/bitstreams/cde4921f-62e2-40d5-9ce0-a2be09eb8019/content	Open Access	
91	○						○				Kuroda, N.	1953	Report on a trip to Marcus Island with notes on the birds	Pacific Science	8(1), 84-93			http://hdl.handle.net/10125/9117	Open Access	
92	○		○								大田正次・伊藤朋之	1973	サブミクロンエロゾルのバックグラウンド汚染の測定法の開発および小笠原諸島・マーカス島近海での測定結果について	気象研究所報告	24(1) 111-137			https://www.jstage.jst.go.jp/article/mripapers1950/24/1/24_111/_pdf-char/ja	Open Access	
93	○		○								Sato, K.; Sakamoto, K.; Takahashi, M.	2005	An air mass with high potential vorticity preceding the formation of the Marcus Convergence Zone	Geophysical Res. Letters	32, L17801	10.1029/2005GL023572	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://doi.org/10.1029/2005GL023572	Open Access	
94	○								○		Welsch, B.	2001	The asserted discovery of Marcus Island in 1694	J. Pacific History	36(1), 105-115	10.1080/00223340120049479	Taylor & Francis	https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/00223340120049479	要購入	
95	○							○	○		手塚 豊	1963	南鳥島先占前後の一考察	法學研究	36(1) 5-39 + 図版4			file:///Users/kayanne/Downloads/AN00224504-19630115-0005%20(1).pdf 慶應義塾大学学術情報リポジトリ	Open Access	
96	○								○		平岡昭利	2003	南鳥島の領有と経営—アホウドリから鳥糞、リン鉱採取へ—	歴史地理学	45(4) 1-14			歴史地理学会	https://cir.nii.ac.jp/crid/1520009407843926912	
97	○						○				Konishi, M.	1955	Cossoninae of Marcus Island (Col., Curculionidae).	Insecta matsumurana	19(1-2) p64			http://hdl.handle.net/2115/9563 北海道大学学術成果コレクション	Open Access	
98			○								Mori, Y.	1980	Spectrum of long-period fluctuations of surface wind at Marcus Island.	Monthly Weather Review	108 (9) 1456-1461					
99	○		○								Mori, Y.	1984	Semidiurnal Tidal Wind Oscillation at Marcus Island	Monthly Weather Review	112(4) 755-760	10.1175/1520-0493(1984)112<0755:STW OAM>2.0.CO;2	American Meteorological Society	https://journals.ametsoc.org/view/journals/mwre/112/4/1520-0493_1984_112_0755_stwoam_2_0_co_2.xml	Open Access	
100	○								○		Welsch, B.	2007	Was Marcus Island discovered by Bernardo de la Torre in 1543?	J. Pacific History	39(1) 109-122	10.1080/00223340410001684886	Taylor & Francis	https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/00223340410001684886	要購入	
101	○		○								Wu, Chi-Hua; Chou, Ming-Dah; Kau, Wen-Shung	2011	Influence of Marcus convergence zone on western North Pacific summer monsoon	Atmospheric Res.	101(4), 863-868	10.1016/j.atmosres.2011.05.013	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0169809511001633	要購入	
102	○	○									Ueda, Y.	1988	Geophysical study of two seamounts near Minami-Tori sima (Marcus) Island, western Pacific.	J. Geomagnet. Geoelectr	40(12), 1481-1501	10.5636/jgg.40.1481		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgg/40/12/40_12_1481/_article-char/en	Open Access	
103	○		○								Mori, Y.	1990	Evidence of inertial oscillations of the surface wind at Marcus Island.	J. Geophys. Res.	95(D8), 11777-11783	10.1029/JD095iD08p11777	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/JD095iD08p11777	要購入	
104	○	○									Konisi, K.; Tanaka, T.; Omura, A.	1985	Radiocarbon ages of "exposed reef" at Minamitorishima (Marcus Island), central Pacific,	Proc. Japan Academy	61 Ser. B, 284-287	10.2183/pjab.61.284		https://www.jstage.jst.go.jp/article/pjab/61/7/61_7_284/_article	Open Access	

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
105	○						○				岡本 誠	2019	南鳥島北東方海域から得られたヤセムツ科魚類 <i>Epigonus fragilis</i> イブシギンヤセムツ (新称)	魚類学雑誌	66(1), 79-86	10.11369/jji.19-006		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jji/66/1/66_19-006/_article	Open Access
106	○						○				Tsuda, R.T.	1968	Some marine benthic algae from Marcus Island, Bonin Islands.	Micronesica	4(2), 207-212				Open Access
107	○					○					Novikov, G. V.; Bogdanova, O. Yu.; Melnikov, M. E.; Drozdova, A. N.; Lobus, N. V.; Shulga, N. A.	2017	Metal Cation Exchange Reactions of Ore Minerals in Fe-Mn Crusts of the Marcus Wake Rise (Pacific Ocean) in Aqueous-Salt Solutions	Doklady Earth Sci.	477(2), 1414-1418	10.1134/S1028334X17120042		https://link.springer.com/content/pdf/10.1134/S1028334X17120042.pdf?pdf=inline%20link	Open Access
108	○	○									Aftabuzzaman, Md.; Yomogida, Kazuki; Suzuki, Shota; Takayanagi, Hideko; Ishigaki, Akimasa; Machida, Shiki; Asahara, Yoshihiro; Yamamoto, Koshi; Hirano, Naoto; Sano, Shin-Ichi; Chiyonobu, Shun; Bassi, Davide; Iryu, Yasufumi	2021	Multi-approach characterization of shallow-water carbonates off Minamitorishima and their depositional settings/history	Island Arc	30(1), e12400	10.1111/iar.12400	Wiley	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/iar.12400	要購入
109	○	○									Hirano, Naoto; Machida, Shiki; Sumino, Hirochika; Shimizu, Kenji; Tamura, Akihiro; Morishita, Taisei; Iwano, Hideki; Sakata, Shuhei; Ishii, Teruaki; Arai, Shoji; Yoneda, Shigekazu; Danhara, Tooru; Hirata, Takafumi	2019	Petit-spot volcanoes on the oldest portion of the Pacific plate	Deep-Sea Res.	154103142	10.1016/j.dsr.2019.103142	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0967063719302882	要購入
110	○	○									Yamamoto, J.; Kawano, T.; Takahata, N.; Sano, Y.	2018	Noble gas and carbon isotopic compositions of petit-spot lavas from southeast of Marcus Island	Earth Planet. Sci. Lett.	497, 139-148	10.1016/j.epsl.2018.06.020	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0012821X18303595	要購入
111	○						○				Hashimoto, Y; Konosu, S; Shibota, M; Watanabe, K.	1970	Toxicity of a turban-shell in the Pacific.	Bull. Jap. Soc. Sci. Fish.	36(11), 1163-1171	10.2331/suisan.36.1163		https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan1932/36/11/36_11_1163/_article	Open Access
112	○					○					Yamazaki, Tetsuo; Nakatani, Naoki; Arai, Rei; Sekimoto, Tsunehiro; Katayama, Hiroyuki	2021	Combined mining and pulp-lifting of ferromanganese nodules and rare-earth element-rich mud around Minamitorishima Island in the western north Pacific: a prefeasibility study	Minerals	11(3), 310	10.3390/min11030310		https://www.mdpi.com/2075-163X/11/3/310	Open Access
113	○	○									Yamazaki, T; Kuboki, E; Matsui, T	2001	DIETS: A new benthic impact experiment on a seamount.	Proceedings of the Fourth (2001) Ocean Mining Symposium	69-76, ISOPE-M-01-012			https://onpetro.org/ISOPEOMS/proceedings-abstract/OMS01/All-OMS01/ISOPE-M-01-012/25098	要購入
114	○					○					Tanaka, Erika; Nakamura, Kentaro; Yasukawa, Kazutaka; Mimura, Kazuhide; Fujinaga, Koichiro; Ohta, Junichiro; Iijima, Koichi; Nozaki, Tatsuo; Machida, Shiki; Kato, Yasuhiro	2020	Chemostratigraphic correlations of deep-sea sediments in the western north Pacific Ocean: a new constraint on the distribution of mud highly enriched in rare-earth elements.	Minerals	10(6), 575	10.3390/min10060575		https://www.mdpi.com/2075-163X/10/6/575	Open Access
115	○					○					Machida, Shiki; Nakamura, Kentaro; Kogiso, Tetsu; Shimomura, Ryo; Horinouchi, Koichi; Okino, Kyoko; Kato, Yasuhiro	2020	Fine-scale chemostratigraphy of cross-sectioned hydrogenous ferromanganese nodules from the western North Pacific	Island Arc	30(1): e12395	10.1111/iar.12395	Wiley	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/iar.12395	Open Access
116	○	○									Ouchi, T.; Nagumo, S.; Kasahara, J.; Koresawa, S.	1983	Separation of rich-frequency PN phases and mantle refracted P phases at distances between 6° and 18° in the western Pacific by ocean bottom seismograph array.	Geoph. Res. Lett.	10(11), 1069-1072	10.1029/GL010i011p1069	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/GL010i011p1069	要購入
117	○						○				Nakayama, Naohide; Endo, Hiromitsu	2017	A new species of the grenadier genus <i>Coryphaenoides</i> (Actinopterygii: Gadiformes: Macrouridae) from Japan and a range extension of <i>Coryphaenoides rudis</i> Gunther 1878 in the northwestern Pacific	Ichthyol. Res.	64(1), 1-12	10.1007/s10228-016-0524-9		https://link.springer.com/article/10.1007/s10228-016-0524-9	Open Access
122	○	○		○	○						棚谷灯子・所立樹・渡部要一・桑江朝比呂	2018	サンゴ礁生態系による炭酸塩地盤形成に関する現地調査と解析：離島における低潮線保全	港湾空港技術研報告,	57(2), 3-33		港湾空港技術研究所	https://www.pari.go.jp/search-pdf/Vol57-2-1.pdf	Open Access
144	○						○				黒田長久	1953	南鳥島のセグロアジサシノ亜種名に就て	山階鳥研報	2, 55-59				

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
173	○						○				土生昶毅	2001	火山列島および南鳥島のミカンコミバエ侵入計画調査	植物防疫, 55(4)	180-182				
176	○		○								Ray, RD., Marrifield, M.A., Woodworth, P.L.	2023	Wave setup at Minamitorishima tide gauge	Journal of Oceanography	79, 13-26	10.1007/s10872-022-00659-0			
177	○		○								Ray, R. D., Loomis, B. D., Zlotnicki, V.	2021	Themean seasonal cycle in relative sea level from satellite altimetry and gravimetry	J. Geodesy	95: 80	10.1007/s00190-021-01529-1		https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1055790321000919	Open Access
178	○						○				小林さやか・加藤 克	2022	明治期の南鳥島産鳥類標本の情報復元	山科鳥学誌	54, 103-139	10.3312/jyio.54.103		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jyio/54/1/54_103/_article/-char/ja/	Open Access
182	○						○				Hayashi, F.; Shima, A.; Horikoshi, K.; Kawakami, K.; Segawa, R.D.; Aotsuka, T.; Suzuki, T.	2009	Limited overwater dispersal and genetic differentiation of the snake-eyed skink (<i>Cryptoblepharus nigropunctatus</i>) in the oceanic Ogasawara Islands, Japan	Zoological Sci.	26, 543-549	10.2108/zsj.26.543		https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/19719406/	要登録
183	○				○						下迫健一郎・木村俊介・工藤博幸・小野寺清司・米山治男	2010	南鳥島における港湾整備に関する現地調査	海洋開発論文集 (第26巻)	26,381-386				
213	○				○						竹中 寛・谷口 修・田中亮一・与那嶺一秀・山路 徹・清宮 理	2020	珊瑚由来の石灰石骨材が海水練り自己充填型コンクリートの性質に及ぼす影響.	土木学会論文集E2 (材料・コンクリート構造)	76(4), 255-269	10.2208/jscejmcs.76.4_255		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejmcs/76/4/76_255/_article/-char/ja/	Open Access
214	○				○						西田孝弘・山路 徹・与那嶺一秀・谷口 修・田中亮一・竹中寛・清宮 理	2020	珊瑚骨材を用いたコンクリートの海洋構造物への適用可能性に関する検討	港湾空港技術研究所報告	59(2), 3-30			https://www.pari.go.jp/report_search/detail.php?id=%2020201022170356	Open Access
223	○							○	○		清水賢一郎	1902	南鳥嶋事件	国家学会雑誌	16-189, 88-118				
224	○							○	○		雉本朗蔵	1902	南鳥島事件	国家学会雑誌	16-188, 96-117				
243	○		○								根山芳晴	1954	マーカスの圏界面高度変化より見た梅雨現象について	中央气象台研究時報	6(12), 592-598				
246	○		○								根山芳晴	1956	マーカス上部対流圏の現象による梅雨豪雨予想	気象庁研究時報	8(12), 759-764				
247	○		○								根山芳晴	1959	マーカスの高層資料による台風の長期予報について	気象庁研究時報	11(4), 247-261				
248	○		○								根山芳晴	1959	マーカスの圏界面高度変化から見た日本の夏の気候について	気象庁研究時報	10(2), 112-118				

(報告書)

152	○				○						白山 和久・関口 賢二	1953	マーカス島附近より産出する骨材(小球状の珊瑚)試験報告	日本建築學會研究報告	23, 1-4				
172	●	○	○		○						海上保安庁水路部	2001	5万分の1沿岸海の基本図 海底地形地質調査報告書「南鳥島」		26p (附図4)				
180	○	○									小西健二	1981	14C法による造礁生物化石の年代測定 (IV)	金沢大学低レベル放射能実験施設研究概要・年次報告	5, 13				
225	○		○						○		気象庁編	1963	南鳥島・鳥島の気象累年報および調査報告	気象庁	188p.				2013年に著作権切れ
232	●						○				奥富 清・井関智裕	2004	南鳥島 (マーカス島) の植生	東京植生研究会	69p				
244	○		○								上井兼文	1954	低緯度の初期大気じょう乱の構造一低緯度における大気じょう乱の研究II	気象庁研究時報	9(6), 407-412				
245	○		○								大道寺重雄	1955	本年の夏のマーカス島の気候	測候時報	22(11), 362-363				
249	○		○								大道寺重雄	1959	マーカス島で観測した台風眼	海と海上気象	3(3), 3				

(記事)

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
14	○	○							○		八木浩司・牧田 肇・木庭元晴	1992	日本の最東端 南鳥島で働く人々	地理	37(7), 28-36				
120	○				○						下迫健一郎・桑江朝比呂・小林茂則・戸谷洋子・片山裕之・茅根創	2015	サンゴの"島をつくる力"を活用し遠隔離島の維持保全に役立つ技術を開発	PARI	19, April 10-12		港湾空港技術研究所	https://www.pari.go.jp/files/items/6259/File/PARIVOL.19.pdf	Open Access
121	○				○						桑江朝比呂	2017	日本最東端南鳥島への渡鳥	Ocean News Letter	411, 4-5		海洋政策研究所	https://www.spf.org/opri/newsletter/411_2.html	Open Access
127									○		竹下源之介	1943	南鳥島占領秘話一米の野望砕いた水谷新六	週刊朝日	1943年9月12日号				
128	○		○								野呂恒夫	1958	南鳥島について	測候時報	25, 273-				
129				○					○		松本利秋	1997	硫黄鳥島・南鳥島で働く隊員	Securitarian	456				
143	○						○				津山 尚	1938	南鳥島産ノ植物	植物研究雑誌	14(6), 426-427				
187	○				○						千葉ロランセンター	1998	南鳥島滞在奮戦記	港湾	75(10),42-43				
190	○		○		○						細野 達雄	2005	離島における気象観測—父島及び南鳥島—	港湾	82(10),32-33				
194	○		○		○						香川 守・河里 太郎	2012	気象庁における遠隔離島での活動	港湾	89(7),16-17				
200	○				○						植村 忠之	2015	遠隔離島における産学官連携型の海洋関連技術開発の推進について	港湾	92(8),26-27				
203	○				○						雨宮 康良	2016	特定離島「南鳥島」における業務と生活	港湾	93(10),22-23				
210	○								○		志賀 重昂	1903	南鳥島と北太平洋問題	地学雑誌	15(1), 42-52	10.5026/jgeography.15.42		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography1889/15/1/15_1_42/_article/-char/ja/	1927年没 1977年著作 権切れ
211	○								○		志賀 重昂	1903	南鳥島と北太平洋問題	地学雑誌	15(2), 135-143	10.5026/jgeography.15.135		https://fatcat.wiki/release/yikbtwh4ejaudmwdzf5enfhn7u	1927年没 1977年著作 権切れ
220	○								○		志賀重昂	1902	鳥島と南鳥島	慶應義塾學報	58-59				1927年没 1977年著作 権切れ
221	○	○							○		志賀重昂	1927	南鳥島	志賀重昂全集	3, 174-179			https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1259737	1927年没 1977年著作 権切れ
222	○	○							○		吉田弟彦	1902	南鳥島視察	地學雑誌	166, 674-678			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography1889/14/10/14_10_674/_article/-char/ja/	
226	○						○				矢部吉禎	1902	南鳥島産植物	植物學雑誌	16(189), 258			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jplantres1887/16/189/16_189_258/_article/-char/en	
227	○	○							○		天外生	1902	南鳥島航海日誌	地學雑誌	14(166), 683-690, doi: 10.5026/jgeography.14.683			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography1889/14/10/14_10_683/_article/-char/ja/	Open access

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
228	○	○							○		猪間収三郎	1904	南鳥島	地学雑誌	16(171), 730-731, doi: 10.5026/jgeography.16.730			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography1889/16/1/16_11_730/article-char/ja/	Open access
229	○	○							○		著者不詳	1898	我南洋の新領土南鳥島の近況	地学雑誌	10(116), 455, doi: 10.5026/jgeography.10.455			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgeography1889/10/8/10_8_455/article-char/ja/	Open access
230	○	○					○				著者不詳	1903	南鳥島の珊瑚	地質学雑誌	10(112), 51				著作権切れ
231	○						○				著者不詳	1903	南鳥島より神保教授の採集せられたる介類等評品	地質学雑誌	10(113), 92				著作権切れ
233	○								○		米軍司令官	1945	マカス島日本軍守備隊司令官に告ぐ		2p				著作権なし
234	○	○					○				中田良雄	1952	マーカス島	天文と気象	18(8/9), 18-21		地人書館		
235	○	○							○		竹下源之介	1943	南鳥島発見開拓史話	日本講演	31p				
239	○								○		秋岡武次郎	1936	南鳥島の我が占領末	地理学	4-10A, 15-20+図版1		古今書院		
240	○								○		藤沢	1970	絶海の孤島「南鳥島」の米軍基地	週刊朝日	1970年1月23日号, 112-115+グラフィア9p				
242	○						○				坂上昭一	1953	マーカス島に旅して	新昆虫	6(5), 23-29+図版3p.		北隆館		
250	○		○						○		野呂恒夫	1958	南鳥島について	測候時報	25,(6), 273-281				
251	○		○						○		淵本 一	1963	気象観測の孤塁、南鳥島との訣別	自然	9月号, 76-83				
252	○		○						○		淵本 一・今里 能・横山知己・松原映治	1963	波瀾にくれた13年-南鳥島の気象観測おわる-	科学朝日	9月号, 91-102				

(学会要旨)

184	○						○				米山治男・竹信正寛・森永真朗	2012	南鳥島における動植物調査	第37回海洋開発シンポジウム					
185	○						○				米山治男・竹信正寛・森永真朗	2012	南鳥島における鳥類調査	第37回海洋開発シンポジウム					
186					○						新村亮・野島省吾・山路徹・大即信明	2022	海水練り鉄筋コンクリートの遠隔離島における暴露試験(その2)	令和4年度全国大会 第77回年次学術講演会					
215	○	○					○				安田正次	2018	衛星画像を用いた南鳥島の植生図の更新	2018年度日本地理学会春季学術大会発表要旨集					

(書籍)

7	●								○		平岡昭利	2012	アホウドリと「帝国」日本の拡大—南洋の島々への進出から侵略へ—		279p		明石書店		
8	●								○		平岡昭利	2015	アホウドリを追った日本人—攫千金の夢と南洋進出	岩波新書1537	212p		岩波書店		
118	●	○					○				Bryan, W.A.	1903	A monograph of Marcus Island	Occasional Papers Bernice Pauahi Bishop Museum of Polynesian Ethnology and Natural History.	II, 77-139				

別添資料1 沖ノ鳥島・南鳥島データベース[資料篇]

○: pdfあり, △: pdf一部あり, ●: コピー・書籍あり

○公開可 ○主分野

番号	pdf	地学・地理	気象・海象	島の保全	港湾・利活用	資源	生物・水産	国際法	歴史・人文	一般・その他	著者	出版年	タイトル	誌・書籍名	ページ	doi: https://doi.org	発行	URL 備考等	公開
125	●								○		長谷川亮一	2011	地図から消えた島々 幻の日本領と南洋探検家たち	吉川弘文館 歴史文化ライブラリー322,	260p				
217	△								○		Brand, D. D.	1967	Geographical exploration by the Spaniards	Friis, H. R. ed. "Tha Pacific Basin"	7, 109-144		American Geographical Society		
237	○	○							○		小笠原島庁編	1888	小笠原島誌纂		456p	10.11501/993735		https://dl.ndl.go.jp/api/iiif/993735/manifest.json	
238	○	○							○		磯村貞吉	1888	小笠原島要覧		279p	10.11501/763680	便益社	https://dl.ndl.go.jp/api/iiif/763680/manifest.json	
241	○								○		池澤夏樹	1991	南鳥島特別航路		163-186		JTB日本交通公社出版事務局		

別添資料2 沖ノ鳥島・南鳥島データベース [地図篇]

区分	番号	原図	pdf	沖ノ鳥島	南鳥島	図タイトル	縮尺	図番号	発行年	発行年(2)	備考	
地形図	TP											
		TP-1987-NG541712-v7		○	○	○	火山列島	1:50,000	NG-54-17-12(ver7)	1987	昭和62年7月30日	明治44年測量, 昭和57年第2回編集, 昭和62年要部修正(沖ノ鳥島)
				○	○	○	火山列島	1:50,000	NG-54-17-12	1987	昭和62年7月30日	明治44年測量, 昭和57年第2回編集, 昭和62年要部修正(沖ノ鳥島): 補給図(指摘訂正 平成3年7月)
				○	○	○	火山列島	1:50,000	NG-54-17-12	1987	昭和62年7月30日	明治44年測量, 昭和57年第2回編集, 昭和62年要部修正(沖ノ鳥島): 補給図(指摘訂正 平成3年7月)
		TP-1983-NG541712		○		○	火山列島	1:50,000	NG-54-17-12	1983	昭和58年8月30日	明治44年測量, 昭和57年第2回編集
		TP-1970-NG541712		○	-	-	火山列島	1:50,000	NG-54-17-12	1970	昭和45年7月30日	明治43年測量, 昭和45年編集
		TP-2019-NG541811-2		○	○	○	南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2	2019	令和1年6月1日	昭和56年測量, 平成24年更新
		TP-2013-NG541811-2		○	○	○	南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2	2013	平成25年3月1日	昭和56年測量, 平成24年更新
		TP-2007-NG541811-2-H19		○	○	○	南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2(S56-H19)	2007	平成19年9月1日	昭和56年測量, 平成19年更新
		TP-2007-NG541811-2-H16		○	○	○	南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2(S56-H16)	2007	平成19年9月1日	昭和56年測量, 平成16年更新
		TP-1984-NG541811-2-v1		○	○		南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2(ver1)	1984	昭和59年7月30日	昭和56年測量
	TP-1984-NG541811-2-v5		○	○		南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2(ver5)	1984	昭和59年7月30日	昭和56年測量: 補給図(平成14年8月)	
	TP-1982-NG541811-2		○	-	-	南硫黄島	1:25,000	NG-54-18-11-2	1982	昭和57年6月30日	昭和56年測量	
空中写真	AP											
		AP-OK-1968-01	原図	○	○		KT-68-10YZ-C1:1		KT-68-10YZ-C1:1	1968		
		AP-OK-1968-02	原図	○	○		KT-68-10YZ-C1:2		KT-68-10YZ-C1:2	1968		
		AP-OK-1968-03	原図	○	○		KT-68-10YZ-C1:3		KT-68-10YZ-C1:3	1968		
		AP-OK-1968-04	原図	○	○		KT-68-10YZ-C1:4		KT-68-10YZ-C1:4	1968		
		AP-OK-1979-01	原図	○	○		KT-79-3-C1:1		KT-79-3-C1:1	1979		
		AP-OK-1979-02	原図	○	○		KT-79-3-C1:2		KT-79-3-C1:2	1979		
		AP-OK-1979-03	原図	○	○		KT-79-3-C1:3		KT-79-3-C1:3	1979		
		AP-OK-1979-04	原図	○	○		KT-79-3-C1:4		KT-79-3-C1:4	1979		
		AP-OK-1979-05	原図	○	○		KT-79-3-C1:5		KT-79-3-C1:5	1979		
		AP-MM-1975-01	原図	○		○	KT-75-16Y-C1:1		KT-75-16Y-C1:1	1975		
	AP-MM-1975-02	原図	○		○	KT-75-16Y-C1:2		KT-75-16Y-C1:2	1975			
海図	NC											
		NC49-2005-OK	原図	○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	W49	2005	平成17年6月16日	平成12年までの海上保安庁海洋情報部の測量
		NC49-2004(2)-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	W49	2004	平成16年2月26日発行, 平成16年11月増刷	昭和62年及び同63年海上保安庁海洋情報部の測量
		NC49-2004(1)-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	W49	2004	平成16年2月26日	昭和62年及び同63年海上保安庁海洋情報部の測量
		NC49-2002-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	W49	2002	平成14年1月10日	昭和62年及び同63年海上保安庁水路部の測量
		NC49-1991-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	第49号	1991	平成3年3月14日	昭和62年及び同63年海上保安庁水路部の測量
		NC49-1984-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	第49号	1984	昭和59年4月2日	昭和8年及び同57年日本海上保安庁水路部の測量
		NC49-1978-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	第49号	1978	昭和53年3月17日	昭和8年日本水路部の測量, 昭和51年までの諸資料を加える
		NC49-1926-OK		○	○		沖ノ鳥島(小笠原諸島分図第1)	1:25,000	第49号	1926	大正15年2月3日	昭和8年日本水路部の測量
		NC48-2020-MM	原図	○		○	南鳥島	1:25,000	W48	2020	令和2年6月18日	平成7年までの海上保安庁海洋情報部の測量, 陸部は国土地理院資料による。
		NC48-2008-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:24,000	W48	2008	平成20年1月17日	平成7年までの海上保安庁海洋情報部の測量
		NC48-2002-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:24,000	W48	2002	平成14年2月21日	昭和52年までの日本及び米国の諸資料による。
		NC48-1980-MM(H5)	原図			○	南鳥島(南方諸島分図)	1:24,000	第48号	1980	昭和55年2月2日発行, 平成5年4月増刷	昭和52年までの日本及び米国の諸資料による。
		NC48-1980-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:24,000	第48号	1980	昭和55年2月2日	昭和52年までの日本及び米国の諸資料による。
		NC48-1961-MM	原図	○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:12,000	第48号	1935	昭和10年11月30日発行, 昭和36年11月第3版	昭和52年までの日本及び米国の諸資料による。
		NC48-1935-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:12,000	第48号	1935	昭和10年11月19日発行	明治35年我が海軍ノ略測
		NC48-1934-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:11,410	第48号	1927	昭和2年2月13日発行(再版), -昭和9年小改正	明治35年我海軍ノ略測
		NC48-1928-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:11,410	第48号	1927	昭和2年1月17日発行, 昭和3年小改正, 昭和2年1月11日改版?	明治35年水路部ノ略測
		NC48-1915-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:11,410	第48号	1915	大正4年4月5日発行, 大正4年4月小改正, 大正4年12月3日再版	明治35年軍艦笠置乗組員海軍中尉秋元秀太郎ノ略測ニ係る
		NC48-1914-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:11,410	第48号	1913	大正2年2月6日発行, 大正3年1月小改正	明治35年軍艦笠置乗組員海軍中尉秋元秀太郎ノ略測ニ係る
	NC73-1904-MM		○		○	南鳥島(南方諸島分図)	1:11,410	第73号	1904	明治37年1月28日	明治35年軍艦笠置乗組員海軍中尉秋元秀太郎ノ略測ニ係る	
海底地形図	BM											
		BM-OK-1991	原図	○	○		沖ノ鳥島	1:50,000	第6577号(1)	1991	平成3年3月14日発行, 平成19年5月復刻版	昭和62年海上保安庁水路部測量
	BM-MM-2001	原図	○		○	南鳥島	1:50,000	第6571号(1)	2001	平成13年7月27日刊行	平成7年海上保安庁水路部測量, 国土地理院2万5千分1地形図使用。	
海底地質構造図	SGSM											
		SGSM-MM-2001	原図	○		○	南鳥島	1:50,000	第6571号(1-S)	2001	平成13年7月27日刊行	平成7年海上保安庁水路部測量, 国土地理院2万5千分1地形図使用。
水路誌	SD											
		SD-2020	原本	○	○	○	本州南・東岸水路誌		書誌101号	2020	2020年3月	海上保安庁
		SD-2020E	原本	○	○	○	Sailing Directions for S & E Coasts of Honshu		Pub. 301	2021	2021年3月	海上保安庁
		SD-2014		○	○	○	本州南・東岸水路誌		書誌101号	2014	2014年3月	海上保安庁
		SD-1949		○	○	○	本州南東岸水路誌		書誌第101号	1949	1949年6月	海上保安庁
		SD-1892		○	○	○	日本水路誌		第1巻	1892	明治25年3月	水路部
		SD-1885		○			寰瀛水路誌		第1巻上	1885	明治18年6月	海軍水路局
米軍地図	USAM											
		USAM-1955	原図	○		○	Marcus Island NE (Sheet 8819 I NE)	1:25,000	AMS W813	1955	1955年8月	1954年編集

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks	
Okinotorishima • Minamitorishima																						
(Report)																						
1	○	Report	○					Y & F				Tayama, Risaburo	1952	Coral Reefs in the South Seas	The Bulletin of the Hydrographic Office	Vol.11, 292p, Appendix I 133p, Appendix II 18 figures and 1 table		Japan Coast Guard		copyright expired		
(Book)																						
124	○	Book	○									Kayanne, H	2004	Coral reefs on the border	The Japanese Coral Reef Society and Ministry of the Environment ed. "Coral Reefs of Japan"	20-21						
(Article)																						
179	○	Article						○				Sato, Magoshichi	1979	Discoveries of fish reefs in Ogasawara fishing ground	Journal of The School of Marine Science and Technology, Tokai University	12, 293-307					Japanese with English abstract	
Okinotorishima																						
(Article)																						
5	○	Article						○				Nakamura, R.; Ando, W.; Yamamoto, H.; Kitano, M.; Sato, A.; Nakamura, M.; Kayanne, H.; Omori, M	2011	Corals mass-cultured from eggs and transplanted as juveniles to their native, remote coral reef	Marine Ecology Progress Series	436, 161-168	10.3354/meps.09257	Inter-Research	https://www.int-res.com/articles/meps_oa/m436p161.pdf	Open Access		
6	○	Article	○					○				Kayanne, H., Hongo, C., Okaji, K., Ide, Y., Hayashibara, T., Yamamoto, H., Mikami, N., Onodera, K., Ootsubo, T., Tkaano, H., Tonegawa, M. and Maruyama, S.	2012	Low species diversity of hermatypic corals on an isolated reef, Okinotorishima, in the northwestern Pacific	Galaxea, Journal of Coral Reef Studies	14, 73-95	10.3755/galaxea.14.73	Japanese Coral Reef Society	https://www.jstage.jst.go.jp/article/galaxea/14/1/14_73/pdf/-char/en	Open Access		
50	○	Article						○				Miyaji, Kenji; Sato, Akito; Watanabe, Koki; Ando, Wataru; Ishioka, Noboru; Nakamura, Ryota; Yamamoto, Hidekazu; Watanuki, Akira	2010	Development of coral propagation technologies in Okinotorishima island	Techno-Ocean Symposium							
52	○	Article						○				Ando, W.; Nakamura, R.; Yamamoto, H.	2010	Technical development of seed production and transplantation of corals by the Fisheries Agency, Japan	Proceedings of 2nd International Seminar on Islands and Oceans	p.31-38		Ocean Policy Research Foundation, Nippon Foundation	https://www.spf.org/_opri_media/publication/pdf/ISBN978-4-88404-254-7.pdf	Open Access		
54	○	Article						○				Yorifuji, M.; Yamashita, H.; Suzuki, G.; Kawasaki, T.; Tsukamoto, T.; Okada, W.; Tamura, K.; Nakamura, R.; Inoue, M.; Yamazaki, M.; Harii, S.	2021	Unique environmental Symbiodiniaceae diversity at an isolated island in the northwestern Pacific	Molecular Phylogenetics Evolution	161, 107158	10.1016/j.ymp.2021.107158	Elsevier	https://link.springer.com/article/10.1007/s00190-021-01529-1	Purchase required		
142	○	Article	○									Kato, Teruyuki; Kotake, Yoshiko; Chachin, Toshikazu; Iimura, Yuzaburo; Miyazaki, Shin-ichi; Kanazawa, Teruo; Suyehiro, Kiyoshi	1996	An estimate of the Philippine Sea Plate motion derived from the global positioning system observation at Okino Torishima, Japan	Journal of the Geodetic Society of Japan	42, 233-243	10.11366/sokuchi1954.42.233		https://www.jstage.jst.go.jp/article/sokuchi1954/42/4/42_233/article/-char/ja/	Open Access		
149	△	Article						○				Beyong-cheol, Kang	2013	leodo, Okinotorishima and International Politics	The Journal of Peace Studies (평화학연구)	14(2), 99-118			https://www.kci.go.kr/kciportal/ci/sereArticleSearch/ciSereArtiView.kci?sereArticleSearchBean.artiId=ART001787861			
151	○	Article						○				Fox, Senan	2016	The Senkaku Shoto/Diaoyu Islands and Okinotorishima disputes: Ideational and material influences	China Information	30(3), 312-333	10.1177/0920203X16665778		https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/0920203X16665778	Open Access		

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks	
154	○	Article							○			Jee-Hyun Choi	2015	A Critical Analysis on the CLCS Recommendation on the Submission made by Japan and its Comments - Focusing on the evaluation on the Okinotorishima -	Maritime Law Review (해사법연구)	27(1), 1-24			https://www.kci.go.kr/kciportal/ci/sereArticleSearch/ciSearch?searchBean.artId=ART001974626	Open Access		
155	○	Article	○	○								Komagome, T.; Watanabe, T.; Shirai, K.; Yamazaki, A.; Uematu, M.	2018	Geochemical and microstructural signals in giant clam <i>Tridacna maxima</i> recorded typhoon events at Okinotori Island, Japan	J. Geophysical Res. Biogeosci.	123, 1460-1474	10.1029/2017JG004082		https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/2017JG004082	Open Access		
156	○	Article	○	○								Yamazaki, A.; Watanabe, T.; Ogawa, N.O.; Ohkouchi, N.; Shirai, K.; Toratani, M.; Uematu, M.	2011	Seasonal variations in the nitrogen isotope composition of Okinotori coral in the tropical western Pacific: A new proxy for marine nitrate dynamics	J. Geophysical Res.	116, G4005	10.1029/2011JG001697		https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1029/2011JG001697	Open Access		
174	○	Article							○			Zhu Lijiang	2008	Chinese practice in public international law: 2007 (I)	Chinese J. International Law	7(2), 485-507	10.1093/chinesejil/jmn017		https://academic.oup.com/chinesejil/article-abstract/7/2/485/280724	Registration required		
175	○	Article							○			Zhu Lijiang	2011	Chinese practice in public international law: 2010	Chinese J. International Law	10(2), 427-468	10.1093/chinesejil/jmr013;		https://academic.oup.com/chinesejil/article-abstract/10/2/427/349071	Registration required		
181	○	Article				○		○				Mizumukai, K.; Sato, T.; Tabet, S.; Kitazawa, D.	2008	Numerical studies on ecological effects of artificial mixing of surface and bottom waters in density stratification in semi-enclosed bay and open sea	Ecological Modelling	214, 251-270	10.1016/j.ecolmodel.2008.02.023	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S04380008000793	Purchase required		
(BOOK)																						
212	●	Book								○		Sharp, A.	1960	The Discovery of the Pacific Islands		259p		Oxford University Press				
(Abstract)																						
37	○	abstract						○				Mikami, Nobuo; Ando, Wataru; Ishioka, Noboru; Nakamura, Ryota; Kawano, Daisuke; Kitano, Michio	2008	Coral growth processes and environmental conditions around Okinotorishima Island, Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts							
38	○	abstract						○				Ando, Wataru; Watanabe, Kouji; Nakamura, Ryota; Ishioka, Noboru; Mikami, Nobuo; Sato, Akito	2008	Coral habitat expansion project around Okinotorishima, Southernmost island of Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts							
39	○	abstract						○				Nakamura, Ryota; Watanuki, Akira; Aota, Toru; Kitano, Michio; Fujita Takayasu	2008	Seed production of <i>Acropora</i> corals of Okinotorishima, Southernmost island of Japan	11th International Coral Reef Symposium, abstracts							
51	○	abstract						○				Omori, Makoto; Yamamoto, Hidekazu; Nakamura, Ryota; Ando, Wataru; Kitano, Michio; Mori, Kenji; Kayanne, Hajime	2010	Coral mass-cultured from eggs and transplanted as juvenile to their native coral reef	The Second Asia Pacific Coral Reef Symposium, Program and abstracts	p.106						
59	○	abstract						○				Mikami, N.; Umedu, T.; Ando, W.; Nakamura, R.; Kitano, M.; Yamamoto, H.	2012	Coral-reef restoration by transplantation of cultured juveniles to artificial reefs	12th International Coral Reef Symposium Abstracts	p.527-528						
79	○	abstract						○				Katayama, E.; Yonezawa, Y.; Komatsu, T.; Ando, W.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Coral transplant suitability study of Okinotorishima by the superposition of coral distribution and habitat condition.	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.169						
80	○	abstract						○				Yamamoto, H.; Suzuki, G.; Ando, W.; Nakamura, R.; Kayanne, H.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Intensive coral reef restoration technology by applying larval supply base	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.379						
81	○	abstract	○					○				Yonezawa, Y.; Katayama, E.; Katayama, M.; Suzuki, K.; Komatsu, T.; Ando, W.; Uchida, S.; Nakamura, K.	2016	Coral distribution mapping of Okinotorishima using time-series high resolution satellite imagery	13th International Coral Reef Symposium, abstracts	p.382						
86	○	abstract	○					○				Katayama, E.; Komatsu, T.; Yonezawa, Y.; Katayama, M.; Ando, W.; Fudo, M.	2018	Developing a method to grasp coral reefs through remote sensing technology.	PIANC-World Congress	p.1-7		World Congress PIANC/ACP	https://coms.events/pianc-panama/data/full_papers/full_paper_48.pdf	Open Access		

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks	
150		abstract				○						Watanabe, Y., Yoshida, K., Nambara, T.	2014	Ocean city planning in the waters of Okinotorishima	33rd ASME International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering							
(Article)																						
4	○	Article						○				Hayashibara, T.; Seno, K.; Yoneyama, S.	2006	Reef building corals on Okinotorishima	Fisheries and Ocean Research Report of Tokyo Metropolitan Government	1, 87-95		Tokyo Metropolitan Islands Area Research and Development Center for Agriculture, Forestry and Fisheries	https://www.ifarc.metro.tokyo.lg.jp/archive/resources/content/829/20080825-174940.pdf	Open Access	Japanese with English abstract	
29	○	Article						○				Mikami, N.; Ando, W.; Ishioka, N.; Ookura, A.; Yamamoto, H.; Kitano, M.	2007	Promotion of fishery resource utilization around Okinotorishima Island	Japanese Journal of Ocean Development	23, 925-930	10.2208/prooe.23.925	Japan Society of Civil Engineers	https://www.jstage.jst.go.jp/article/prooe1986/23/0/23_0_925/_article/-char/ja/	Open Access	Japanese with English abstract	
30	○	Article						○				Mikami, N.; Ando, W.; Ishioka, N.; Ookura, A.; Yamamoto, H.; Kitano, M.	2007	Development of various coral reef restoration technologies in Okinotorishima Island	Japanese Journal of Ocean Development	23, 931-935	10.2208/prooe.23.931	Japan Society of Civil Engineers	https://www.jstage.jst.go.jp/article/prooe1986/23/0/23_0_931/_article/-char/ja/	Open Access	Japanese with English abstract	
44	○	Article						○				Ando, Wataru; Watanabe, Kouji; Tamura, Mayumi; Miyake, Takatomo; Kitano, Michio; Yamamoto, Hidekazu	2009	Discussion about "function and structure" for the artificial base of coral distribution	Japanese Journal of Ocean Development	25, 461-466	10.18903/pamjsfe.2017.0_108	Japan Society of Civil Engineers	https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjsfe/2017/0/2017_108/_pdf/-char/en	Open Access	Japanese with English abstract	
55	○	Article						○				Mori, Kenji; Umeda, Tateo; Ando, Wataru; Nakamura, Ryota; Kitano, Michio; Yamamoto, Hidekazu	2011	Development of sexual coral colonies production and transplantation technology in Okinotorishima	The 22nd Ocean Engineering Symposium	OES22-088		Japan Federation of Ocean Engineering Societies, The Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers				Japanese with English abstract
138	○	Article	○			○				○		Shinji, M. Akira	1970	Oki no Tori Shima	Kaiyo Kagaku	3, 65-69						Japanese with English abstract
153	○	Article				○		○				Ueda, Takahiro; Nishida, Tetsuya; Ohara, Junichi; Tanaka, Tatsuhiko; Ura, Keisuke; Urata, Kazuya; Ikegami, Yasuyuki	2014	Ocean investigation for fisheries resources development and utilization of ocean energy in the sea region surrounding Okinotorishima	Journal of National Fisheries University	62(2)75-83			http://www.amsl.or.jp/midor/iishi/27_05.pdf	Open Access	Japanese with English abstract	
(Report)																						
216	○	Report						○				Yoneyama, Sumio; Seno, Kotaro; Maeda, Hiroshi; Onoda, Akira; Hayashibara, Takeshi	2006	Marine animals on the coral reefs of Okinotorishima	Fisheries and Ocean Research Report of Tokyo Metropolitan Government	1, 73-85		Tokyo Metropolitan Islands Area Research and Development Center for Agriculture, Forestry and Fisheries				Japanese with English abstract
(Abstract)																						
10	○	abstract	○		○	○			○			Kagami, Y.; Fukushima, T.	2005	Preliminary consideration toward sustainable use of Okinotorishima	18th Ocean Engineering Symposium			The Society of Naval Architects of Japan				Japanese with English abstract
68	○	abstract	○					○				Katayama, Mika; Morita, Taichi; Suzuki, Kumiko; Yonezawa, Yasuo; Katayama, Etsujiro; Yamano, Hiroya; Ando, Wataru; Nishizaki, Takayuki; Watanabe, Norihito	2014	Coral distribution mapping of Okinotorishima using time-series high resolution satellite imagery	The 56th Conference of the Remote Sensing Society of Japan	p.93-94		The Remote Sensing Society of Japan	http://www.rssj.or.jp/wp-content/uploads/2016/02/u10_56_H26.pdf	Open Access	Japanese with English abstract	

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks
69	○	abstract	○					○				Katayama, Mika; Morita, Taichi; Suzuki, Kumiko; Yonezawa, Yasuo; Katayama, Etsujiro; Yamano, Hiroya; Ando, Wataru; Nishizaki, Takayuki; Watanabe, Norihito	2014	Characterization of coral distribution change of Okinotorishima using time-series high resolution satellite imagery	The 57th Conference of the Remote Sensing Society of Japan	p.107-108		The Remote Sensing Society of Japan	https://www.rssj.or.jp/wp-content/uploads/2016/02/u08_57_H26.pdf	Open Access	Japanese with English abstract

Minamitorishima

(Article)

16	○	Article						○				Takaya, Y.; Yasukawa, K.; Kawasaki, T.; Fujinaka, K.; Ohta, J.; Usui, Y.; Nakamura, K.; Kimura, J.; Chang, Q.; Hamada, M.; Dodbiba, G.; Nozaki, T.; Iijima, K.; Morisawa, T.; Kuwahara, T.; Ishida, Y.; Ichimura, T.; Kitazume, M.; Fujita, T.; Kato, Y.	2018	The tremendous potential of deep-sea mud as a source of rare-earth elements.	Scientific Reports	8:5763	10.1038/s41598-018-23948-5		https://www.nature.com/articles/s41598-018-23948-5	Open Access	
17	○	Article						○				Iijima, K.; Yasukawa, K.; Fujiwara, K.; Nakamura, K.; Machida, S.; Takaya, Y.; Ohta, J.; Haraguchi, S.; Nishio, Y.; Usui, Y.; Nozaki, T.; Yamazaki, T.; Ichiyama, Y.; Ijiri, A.; Inagaki, F.; Machiyama, H.; Suzuki, K.; Kato, Y.; KR13-02 Cruise Members	2016	Discovery of extremely REY-rich mud in the western North Pacific Ocean	Geochemical Journal	50, 557-573	10.2343/geochemj.2.0431		https://www.jstage.jst.go.jp/article/geochemj/50/6/50_2.0431/article	Open Access	
18	○	Article						○				Fujinaga, K.; Yasukawa, K.; Nakamura, K.; Machida, S.; Takaya, Y.; Ohta, J.; Arai, S.; Liu, H.; Usami, R.; Maki, R.; Haraguchi, S.; Nishio, Y.; Usui, Y.; Nozaki, T.; Yamazaki, T.; Ichiyama, Y.; Ijiri, A.; Inagaki, F.; Machiyama, H.; Iijima, K.; Suzuki, K.; Kato, Y.; KR13-02, MR13-E02 Leg 2 and KR14-02 Cruise Members	2016	Geochemistry of REY-rich mud in the Japanese exclusive economic zone around Minamitorishima Island	Geochemical Journal	50, 575-590	10.2343/geochemj.2.0432		https://www.jstage.jst.go.jp/article/geochemj/50/6/50_2.0432/article	Open Access	
90	○	Article						○				Sakagami, S.F.	1961	An ecological perspective of Marcus Island, with special reference to land animals	Pacific Science	15(1), 82-104			https://scholarspace.manoa.hawaii.edu/server/api/core/bitstreams/cde4921f-62e2-40d5-9ce0-a2be09eb8019/content	Open Access	
91	○	Article						○				Kuroda, N.	1953	Report on a trip to Marcus Island with notes on the birds	Pacific Science	8(1), 84-93			http://hdl.handle.net/10125/9117	Open Access	
93	○	Article		○								Sato, K.; Sakamoto, K.; Takahashi, M.	2005	An air mass with high potential vorticity preceding the formation of the Marcus Convergence Zone	Geophysical Res. Letters	32, L17801	10.1029/2005GL023572	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://doi.org/10.1029/2005GL023572	Open Access	
94	○	Article								○		Welsch, B.	2001	The asserted discovery of Marcus Island in 1694	J. Pacif History	36(1), 105-115	10.1080/00223340120049479	Taylor & Francis	https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/00223340120049479	Purchase required	
97	○	Article						○				Konishi, M.	1955	Cossoninae of Marcus Island (Col., Curculionidae).	Insecta matsumurana	19(1-2) p64			http://hdl.handle.net/2115/9563	Open Access	
98		Article		○								Mori, Y.	1980	Spectrum of long-period fluctuations of surface wind at Marcus Island.	Monthly Weather Review	108 (9) 1456-1461					
99	○	Article		○								Mori, Y.	1984	Semidiurnal Tidal Wind Oscillation at Marcus Island	Monthly Weather Review	112(4) 755-760	10.1175/1520-0493(1984)112<0755:STW OAM>2.0.C	American Meteorological Society	https://journals.ametsoc.org/view/journals/mwre/112/4/1520-0493_1984_112_0755_stwoam_2_0_co_2.xml	Open Access	
100	○	Article								○		Welsch, B.	2007	Was Marcus Island discovered by Bernardo de la Torre in 1543?	J. Pacif History	39(1) 109-122	10.1080/0022334010001684886	Taylor & Francis	https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/0022334010001684886	Purchase required	
101	○	Article		○								Wu, Chi-Hua; Chou, Ming-Dah; Kau, Wen-Shung	2011	Influence of Marcus convergence zone on western North Pacific summer monsoon	Atmospheric Res.	101(4), 863-868	10.1016/j.atmosres.2011.05.013	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S016909511001633	Purchase required	

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks
102	○	Article	○									Ueda, Y.	1988	Geophysical study of two seamounts near Minami-Tori sima (Marcus) Island, western Pacific.	J.Geomagnet. Goelectr	40(12),1481-1501	10.5636/jgg.40.1481		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jgg1949/40/12/40_12_1481/_article/-char/en	Open Access	
103	○	Article		○								Mori, Y.	1990	Evidence of inertial oscillations of the surface wind at Marcus Island.	J. Geophys. Res,	95(D8), 11777-11783	10.1029/JD095iD08p11777	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/JD095iD08p11777	Purchase required	
104	○	Article	○									Konisi, K.; Tanaka, T.; Omura, A.	1985	Radiocarbon ages of "exposed reef" at Minamitori-shima (Marcus Island), central Pacific,	Proc. Japan Academy	61 Ser. B, 284-287	10.2183/pjab.61.284		https://www.jstage.jst.go.jp/article/pjab1977/61/7/61_7_284/_article	Open Access	
106	○	Article						○				Tsuda, R.T.	1968	Some marine benthic algae from Marcus Island, Bonin Islands.	Micronesica	4(2), 207-212				Open Access	
107	○	Article					○					Novikov, G. V.; Bogdanova, O. Yu.; Melnikov, M. E.; Drozdova, A. N.; Lobus, N. V.; Shulga, N. A.	2017	Metal Cation Exchange Reactions of Ore Minerals in Fe-Mn Crusts of the Marcus Wake Rise (Pacific Ocean) in Aqueous-Salt Solutions	Doklady Earth Sci.	477(2), 1414-1418	10.1134/S1028334X17120042		https://link.springer.com/content/pdf/10.1134/S1028334X17120042.pdf?pdf=inline%20link	Open Access	
108	○	Article	○									Aftabuzzaman, Md.; Yomogida, Kazuki; Suzuki, Shota; Takayanagi, Hideko; Ishigaki, Akimasa; Machida, Shiki; Asahara, Yoshihiro; Yamamoto, Koshi; Hirano, Naoto; Sano, Shin-Ichi; Chiyonobu, Shun; Bassi, Davide; Iryu, Yasufumi	2021	Multi-approach characterization of shallow-water carbonates off Minamitorishima and their depositional settings/history	Island Arc	30(1),e12400	10.1111/iar.12400	Wiley	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/iar.12400	Purchase required	
109	○	Article	○									Hirano, Naoto; Machida, Shiki; Sumino, Hirochika; Shimizu, Kenji; Tamura, Akihiro; Morishita, Taisei; Iwano, Hideki; Sakata, Shuhei; Ishii, Teruaki; Arai, Shoji; Yoneda, Shigekazu; Danhara, Tooru; Hirata, Takafumi	2019	Petit-spot volcanoes on the oldest portion of the Pacific plate	Deep-Sea Res.	154103142	10.1016/j.dsr.2019.103142	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0967063719302882	Purchase required	
110	○	Article	○									Yamamoto, J.; Kawano, T.; Takahata, N.; Sano, Y.	2018	Noble gas and carbon isotopic compositions of petit-spot lavas from southeast of Marcus Island	Earth Planet. Sci. Lett.	497, 139-148	10.1016/j.epsl.2018.06.020	Elsevier	https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0012821X18303595	Purchase required	
111	○	Article						○				Hashimoto, Y; Konosu, S; Shibota, M; Watanabe, K.	1970	Toxicity of a turban-shell in the Pacific.	Bull. Jap. Soc. Sci. Fish.	36(11),1163-1171	10.2331/suisan.36.1163		https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan1932/36/11/36_11_1163/_article	Open Access	
112	○	Article					○					Yamazaki, Tetsuo; Nakatani, Naoki; Arai, Rei; Sekimoto, Tsunehiro; Katayama, Hiroyuki	2021	Combined mining and pulp-lifting of ferromanganese nodules and rare-earth element-rich mud around Minamitorishima Island in the western north Pacific: a prefeasibility study	Minerals	11(3), 310	10.3390/min11030310		https://www.mdpi.com/2075-163X/11/3/310	Open Access	
113	○	Article	○									Yamazaki, T; Kuboki, E; Matsui, T	2001	DIETS: A new benthic impact experiment on a seamount.	Proceedings of the Fourth (2001) Ocean Mining Symposium	69-76, ISOPE-M-01-012			https://onpetro.org/ISOPEOMS/proceedings-abstract/OMS01/All-OMS01/ISOPE-M-01-012/25098	Purchase required	
114	○	Article					○					Tanaka, Erika; Nakamura, Kentaro; Yasukawa, Kazutaka; Mimura, Kazuhide; Fujinaga, Koichiro; Ohta, Junichiro; Iijima, Koichi; Nozaki, Tetsuo; Machida, Shiki; Kato, Yasuhiro	2020	Chemostratigraphic correlations of deep-sea sediments in the western north Pacific Ocean: a new constraint on the distribution of mud highly enriched in rare-earth elements.	Minerals	10(6), 575	10.3390/min10060575		https://www.mdpi.com/2075-163X/10/6/575	Open Access	
115	○	Article					○					Machida, Shiki; Nakamura, Kentaro; Kogiso, Tetsu; Shimomura, Ryo; Horinouchi, Koichi; Okino, Kyoko; Kato, Yasuhiro	2020	Fine-scale chemostratigraphy of cross-sectioned hydrogenous ferromanganese nodules from the western North Pacific	Island Arc	30(1): e12395	10.1111/iar.12395	Wiley	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/iar.12395	Open Access	
116	○	Article	○									Ouchi, T.; Nagumo, S.; Kasahara, J.; Koresawa, S.	1983	Separation of rich-frequency PN phases and mantle refracted P phases at distances between 6° and 18° in the western Pacific by ocean bottom seismograph array.	Geoph. Res. Lett.	10(11), 1069-1072	10.1029/GL010i011p01069	AGU: Advancing Earth and Space Science	https://agupubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1029/GL010i011p01069	Purchase required	

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks
117	○	Article						○				Nakayama, Naohide; Endo, Hiromitsu	2017	A new species of the grenadier genus <i>Coryphaenoides</i> (Actinopterygii: Gadiformes: Macrouridae) from Japan and a range extension of <i>Coryphaenoides rudis</i> Gunther 1878 in the northwestern Pacific	Ichthyol. Res.	64(1), 1-12	10.1007/s10228-016-0524-9		https://link.springer.com/article/10.1007/s10228-016-0524-9	Open Access	
176	○	Article		○								Ray, R.D., Marrifield, M.A., Woodworth, P.L.	2023	Wave setup at Minamitorishima tide gauge	Journal of Oceanography	79, 13-26	10.1007/s10872-022-00659-0				
177	○	Article		○								Ray, R. D., Loomis, B. D., Zlotnicki, V.	2021	Themean seasonal cycle in relative sea level from satellite altimetry and gravimetry	J. Geodesy	95: 80	10.1007/s00190-021-01529-1	https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1055790321000919	Open Access		
182	○	Article						○				Hayashi, F.; Shima, A.; Horikoshi, K.; Kawakami, K.; Segawa, R.D.; Aotsuka, T.; Suzuki, T.	2009	Limited overwater dispersal and genetic differentiation of the snake-eyed skink (<i>Cryptoblepharus nigropunctatus</i>) in the oceanic	Zoological Sci.	26, 543-549	10.2108/zsj.26.543	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/19719406/	Registration required		
(Book)																					
118	●	Book	○					○				Bryan, W.A.	1903	A monograph of Marcus Island	Occasional Papers Bernice Pauahi Bishop Museum of Polynesian Ethnology and Natural History.	II, 77-139					
217	△	Book								○		Brand, D. D.	1967	Geographical exploration by the Spaniards	Friis, H. R. ed. "Tha Pacific Basin"	7, 109-144		American Geographical Society			
(Article)																					
92	○	Article		○								Ohta, Shoji; Ito, Tomoyuki	1973	Method of measurement of the background concentration of submicron aerosols and some results from the observations around the Ogasawara Island and Marcus Island	Papers in Meteorology and Geophysics	24(1) 111-137			https://www.jstage.jst.go.jp/article/mripapers1950/24/1/24_111/_pdf/-char/ja	Open Access	Japanese with English abstract
96	○	Article								○		Hiraoka, Akiyoshi	2003	Possession and management of Minami Torishima Island: from catching albatross to getting guano and phosphate rocks	Historical Geography (Rekishi Chirigaku)	45(4) 1-14		The Association of Historical Geography in Japan	https://cir.nii.ac.jp/crid/1520009407843926912		Japanese with English abstract
105	○	Article						○				Okamoto, Makoto	2019	Record of the epigonid fish <i>Epigonus fragilis</i> off northeast Marcus Island, western North Pacific. Japan.	Japanese Journal of Ichthyology	66(1), 79-86	10.11369/jji.19-006		https://www.jstage.jst.go.jp/article/jji/66/1/66_19-006/_article	Open Access	Japanese with English abstract
122	○	Article	○		○	○						Tanaya, Toko; Tokoro, Tatsuki; Watabe, Yoichi; Kuwae, Tomohiro	2018	Field measurements and analyses of carbonate production by a coral reef ecosystem: towards the low-water line protection of remote islands	Reports of the Ports and Airport research Institute	57(2), 3-33		Port and Airport Research Institute	https://www.pari.go.jp/search-pdf/Vol57-2-1.pdf	Open Access	Japanese with English abstract
144	○	Article						○				Kuroda, Nagahisa	1953	On the subspecific name of the sooty tern of Marcus I.	Journal of the Yamashina Institute for Ornithology	2, 55-59					Japanese with English abstract
178	○	Article						○				Kobayashi, Sayaka; Kato, Masaru	2022	Restoration of collected data about bird specimens from Minamitorishima Island during the Meiji Period	Journal of the Yamashina Institute for Ornithology	54, 103-139	10.3312/jyio.54.103	https://www.jstage.jst.go.jp/article/jyio/54/1/54_103/_article/-char/ja/	Open Access	Japanese with English abstract	
183	○	Article						○				Shimosako, Kenichiro; Kimura, Shunsuke; Kudoh, Hiroyuki; Onodera, Kiyoshi; Yoneyama, Haruo	2010	Field investigation for port improvement in Minami Torishima	Japanese Journal of Ocean Development	26, 381-386					Japanese with English abstract
213	○	Article						○				Takenaka, Hiroshi; Taniguchi, Osamu; Tanaka, Ryoichi; Yonamine, Kazuhide; Yamaji, Toru; Kiyomiya, Osamu	2020	Effects of limestone aggregate derived from corals on properties of self-compacting concrete mixed with seawater	Japanese Journal of JSCE	76(4), 255-269	10.2208/jscejmcs.76.4_255	https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejmcs/76/4/76_255/_article/-char/ja/	Open Access	Japanese with English abstract	
214	○	Article						○				Nishida, Takahiro; Yamaji, Toru; Yonamine, Kazuhide; Taniguchi, Osamu; Tanaka, Ryoichi; Takenaka, Hiroshi; Kiyomiya, Osamu	2020	Investigation of applicability of coral based aggregate on marine concrete structure	Reports of the Ports and Airport research Institute	59(2), 3-30			https://www.pari.go.jp/report_search/detail.php?id=%202021022170356	Open Access	Japanese with English abstract

Okinotorishima, Minamitorishima Database

○: pdf available; △: pdf partly available; ●: copy or book available

○ direct link to the article

No.	pdf	category	geology & geography	Meteorology & Oceanography	Island management	Port & Utilization	Resources	Biology & Fisheries	International Law	History & Humanity	General	Authors	Year	Title	Journals	Volume, pages	doi: https://doi.org	Publisher	URL	Open Access	Remarks	
243	○	Article		○								Neyama, Y.	1954	On the analysis of Bai-u season with particular reference to the tropopause height at Marcus Isle	Journal of Meteorological Research	6(12), 592-598						Japanese with English abstract
246	○	Article		○								Neyama, Y.	1956	On the forecasting of heavy rainfall in western Japan in Bai-u season by means of the analysis of upper troposphere at Marcus Isle	Journal of Meteorological Research	8(12), 759-764						Japanese with English abstract
247	○	Article		○								Neyama, Y.	1959	The long-range forecast of typhoon by upper air data at Marcus Island	Journal of Meteorological Research	11(4), 247-261						Japanese with English abstract
248	○	Article		○								Neyama, Y.	1959	Relation between climatic of Japan in summer season and height variation of tropopause over Marcus Island	Journal of Meteorological Research	10(2), 112-118						Japanese with English abstract
(Report)																						
232	●	Report						○				Okutomi, Kiyoshi; Iseki, Tomohiro	2004	Vegetation of Minami-Torishima (Marcus) Island	Tokyo Vegetation Research Group, Tokyo Univ. Agriculture and Technology	69p						Japanese with English abstract
244	○	Report		○								Uwai, K.	1954	On the structure of atmospheric disturbances at initial stage in low latitude -on atmospheric disturbances in low latitude II-	Journal of Meteorological Research	9(6), 407-412						Japanese with English abstract